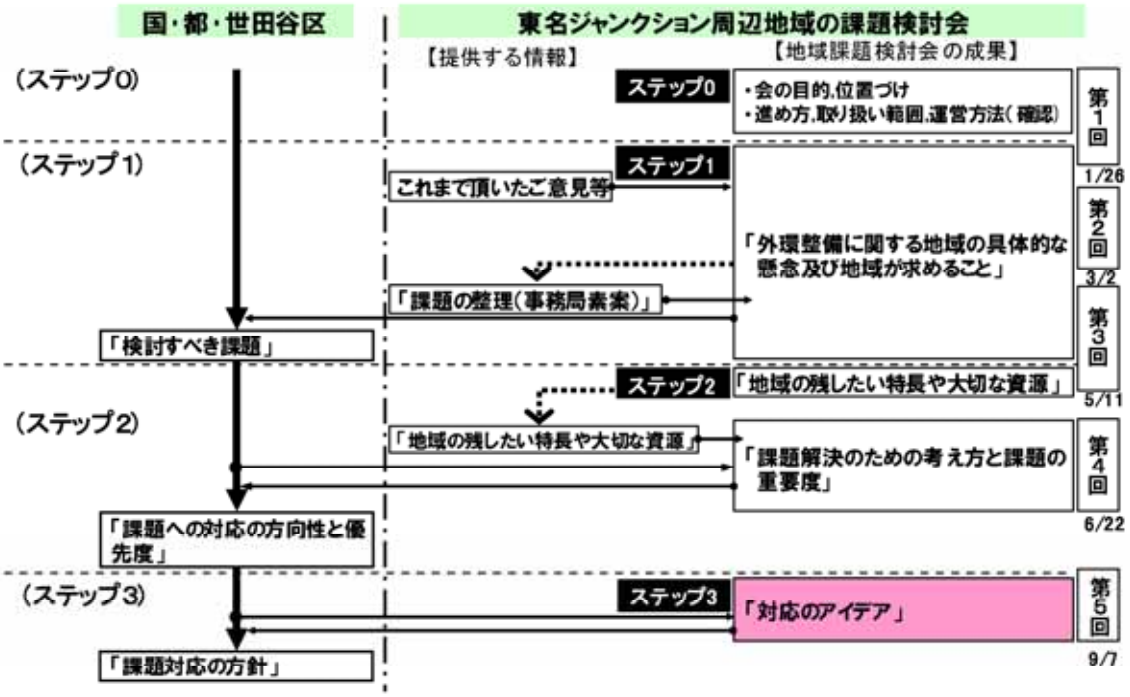
(3) ステップ 3

【検討会メンバー】
対応のアイデア



東名ジャンクション周辺地域の課題検討会

対応のアイデア

【本資料について】
・本資料は、東名ジャンクション周辺地域の課題検討会において、ステップ３でのメンバーの議論の成果です。
・課題解決のためのアイデアを、グループ毎に掲載しました。
・対応する課題ごとにアイデアを整理し、さらに「計画内容」に関するアイデアと「進め方」に関するアイデアに大きく分類しました。
・「計画内容」に関するアイデアは、トンネル部、ジャンクション部、環境施設帯、換気所、周辺部、にさらに分類し、記載しました。
・また、「進め方」に関するアイデアは、計画、調査、工事、管理、PI、その他に分類し、記載しました。

東名ジャンクション周辺地域の課題検討会　メンバー

Aグループ

1. 交通（広域交通）の課題に対応するためのアイデア

東名ジャンクション以南の進め方に関するアイデア

・インターチェンジ周辺の道路が混雑して大気が汚染されるのではないか心配なので、東名以南の計画を早期に進めてほしい。
・東名以南の計画を早期に進める。

2. 環境（大気質）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・ジャンクション周辺に農地があるため、地上部道路による日照阻害を懸念している。地上部道路を透明な蓋がけ（透明なドーム）にすることで、大気への影響も抑制され、農地も日陰にならない。
・大気や景観への影響への懸念がある。ジャンクションの完全地下化により、地上構造物が見えない状態になり、地上部道路の排気ガスもなくなる。
・地上部道路の排気ガスへの懸念がある。地上部道路を蓋がけして、内部の排気を換気所において浄化することで、大気への影響への不安を抑制することができる。
・地上部道路の排気ガスへの対策に懸念があるため、地上部道路全体に天蓋をつけて（ドーム化）排気することを望む。
・排気ガスや騒音などの環境への影響、動線やコミュニティが分断されることなどの影響が心配なため、ジャンクションを完全地下化にしてほしい。外環を完全地下化と言うのであればジャンクション部の地下化も検討が必要だ。地上部であることへ懸念がある。
・料金所における排気ガスの影響に懸念があるため、ETC 限定の料金所にして環境への影響を低減することを望む。

換気所の計画に関するアイデア

・計画で示されている換気所の位置や構造について懸念がある。様々な案を考え、風洞実験をしてシミュレーションすることで、ふさわしい案を見出すことができる。
・１か所の換気所で排ガスを処理しきれるのか懸念がある。十分な処理能力のある換気所を必要な箇所数分、整備することで、大気への影響への不安を抑制できる。
・トンネル内の排ガスすべての処理能力を有する換気所を整備することで、大気への影響への不安を抑制できる。
・換気所は、道路の地下部分のどの範囲の排気ガスを集めて排出するのか。長い区間に排出された排気ガスがこの地域に排出され影響を受けることへ懸念がある。換気所の設置箇所を多くして病み分けできないのか。
・現在の直立した換気所の計画では、景観が壊され、また風が巻くという地域特有の現象による大気への影響が懸念される。換気所の位置や構造を見直して、殿山側に移動し登り窯方式にすることで、大気や景観への影響を低減できる。
・東名の排気設備がどのようなものになるのか不安がある。中央線トンネルの素晴らしい排気設備をつくった技術力以上の力で対応することで、東名の排気設備への不安を抑制できる。

PIの進め方に関するアイデア

・換気所が 30mも高さが必要なのか懸念がある。様々な条件で詳細なシミュレーションを行い、データを示すことで、30mの場合の影響がどの程度がわかり、住民も納得することができる。
・既設の換気所のデータが示されなくては、東名の換気所について検討のしようがないことに不満がある。井草トンネルの換気装置を設置した根拠（この交通量だから、この装置をつけている）を示す。それをもとに検討したい。
・既設の換気所のデータが示されなくては、東名の換気所について検討のしようがないことに不満がある。環八や中央線などの換気所のデータ（何メートル吹き飛ばし、どのように拡散しているか）を市民に示し、それをもとに検討したい。
・整備後の大気や騒音の影響がどのようなものかわからないため、既存道路の環境調査データの提示により、影響を知りたい。

3. 環境（騒音・振動・低周波）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・低周波音の影響を懸念しているため、地上部の道路に天蓋をかける。
・排気ガスや騒音などの環境への影響、動線やコミュニティが分断されることなどの影響が心配なため、ジャンクションを完全地下化にしてほしい。外環を完全地下化と言うのであればジャンクション部の地下化も検討が必要だ。地上部であることへ懸念がある。
・低周波音の影響を懸念しているため、透明な防音壁の設置により影響が低減することを望む。

PIの進め方に関するアイデア

・整備後の大気や騒音の影響がどのようなものかわからないため、既存道路の環境調査データの提示により、影響を知りたい。

4. 環境（景観）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・高架道路を大きなトラックが走っているのを見たら周辺の住民は不安を感じるという懸念がある。通行する車が見えないよう、ドームで覆う構造とすることで、住民の不安を抑制できる。

・大気や景観への影響への懸念がある。ジャンクションの完全地下化により、地上構造物が見えない状態になり、地上部道路の排気ガスもなくなる。
・地域の自然、景観にそぐわないものが出来ることへの不安がある。人工物が第二の自然になるには長い時間を要するが、自然にマッチするものを、耐えうるものを作るべき。
・地域の自然、景観にそぐわないものが出来ることへの不安がある。人工物が本当の意味での第二の自然になるには長い時間を要するが、自然にマッチするものを、耐えうるものを作るべき。

環境施設帯の計画に関するアイデア

・地上部の構造物の景観が、周辺住民へ不安を与えることを懸念している。樹木を植えることにより、景観を和らげる。
・地上部構造物の外壁を緑化することにより、景観を和らげる。

換気所の計画に関するアイデア

・ニョキニョキと煙突がたっていると火葬場・焼却場のイメージがあるため、デザインに不安がある。センスのよいデザインとすることで、それらをイメージさせないようにする。
・換気所の煙突の景観がよくないことへの懸念がある。煙突を緑化することにより、カモフラージュされて景観を和らげることができる。
・現在の直立した換気所の計画では、景観が壊され、また風が巻くという地域特有の現象による大気への影響が懸念される。換気所の位置や構造を見直して、殿山側に移動し登り窯方式にすることで、大気や景観への影響を低減できる。
・地下道路の換気所にしては、高すぎることへの懸念がある。30mの高さの科学的根拠を示すべき。また、除去装置の能力をあげることで高さを低くできるのであれば、低くすべき。

PIの進め方に関するアイデア

・地下道路の換気所にしては、高すぎることへの懸念がある。30mの高さの科学的根拠を示すべき。

5. 環境（日照阻害・電波障害・風など）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・ジャンクション周辺に農地があるため、地上部道路による日照阻害を懸念している。地上部道路を透明な蓋かけ（透明なドーム）にすることで、大気への影響も抑制され、農地も日陰にならない。

PIの進め方に関するアイデア

・地下道路の換気所にしては、高すぎることへの懸念がある。30mの高さの科学的根拠を示すべき。

6. 環境（史跡・文化財）の課題に対応するためのアイデア

環境施設帯の計画に関するアイデア

・環境施設帯の予定区域内にある大八天神社がなくなることが心配。環境施設帯の幅を狭くするなどの工夫で対応できるとよい。

7. 環境（環境一般）の課題に対応するためのアイデア

調査の進め方に関するアイデア

・PM2.5 以外にも調査すべき物質があるかもしれないという不安がある。最先端の基準に応じた調査を行うことで、調査対象に、調査すべき物質を含むことができ、これらが、どのような影響や変化があるかを知ることができる。
・外環整備によって子どもの健康への影響がどの程度おこるのかという不安がある。子どもを対象とした基準を設け調査することで、子どもの健康への影響に対する外環整備の因果関係がわかる。
・健康への影響が懸念されるPM2.5が調査されていないことへの不安がある。環境省の最新の基準に応じた調査を行うことで、どのような影響や変化があるかを知ることができる。
・外環開通による健康への被害を懸念している。国立成育医療センターによる「外環開通前後の健康影響調査」を行うことを提案する。外環建設の前後をはさみ、数年ごとに 10 数年ほど、年齢、形質、その他の条件が揃った集団を、環境の違う（ex.山間部、環七沿いなど）地域と比較しながら調査する。（影響があると思われる場所（外環沿道）、影響が少ないと思われる場所（山間部）、改善されると思われる場所（外環開通によって交通量が減るとされる既存幹線沿い）での継続調査を行う。）調査により以下のメリットがあげられる。
[行政側]他の省庁に任せず、自ら道路の影響を調査することで責任アピールできる、結果によっては根拠のない訴訟を退けられる、今後の道路建設（PIの際の参考資料となる。[住民側]結果によってはぜんそくなどの治療に補償が求められる。[双方]調査結果をよくするため一層の排気処理努力→悪影響の軽減、憶測によらず、専門家の手による客観的な状態把握が出来る。"
・外環整備によって低周波音等の環境への影響や変化があるのではないかと思っている。整備の前後に調査し比較することで、外環整備の因果関係がわかる。
・低周波音は調査がされておらず影響について不安がある。調査によって、どのような影響や変化があるかを知ることができる。

8. まちづくり（まちづくり全般）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・喜多見３丁目の高架下を、駐車場や仮設小屋などで有効に活用してほしい。

周辺部の計画に関するアイデア

・高齢者が多いため、移動時の利便性向上への期待がある。動く歩道のような橋とすることで、移動しやすくなる。
・細い生活道路しかなく大型の緊急車両が入れない喜多見６丁目などのジャンクション周辺地区で、災害時対応のまちづくりがないことへの懸念があるため、外環整備と一緒にジャンクション周辺地区の災害対策を考えてほしい。

9. まちづくり（地域分断）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・排気ガスや騒音などの環境への影響、動線やコミュニティが分断されることなどの影響が心配なため、ジャンクションを完全地下化にしてほしい。外環を完全地下化と言うのであればジャンクション部の地下化も検討が必要だ。地上部であることへ懸念がある。

周辺部の計画に関するアイデア

・現在ある生活動線は、地域コミュニティの分断や移動の利便性の面から、生活に必須のものであるため、なくなることへの懸念がある。これらを残すことで、地域分断がおきないようにする。
・動線もコミュニティも含め地域分断される懸念があるため、大正橋、茶屋道橋、水道橋＋αはなくさないことを望む。

10. まちづくり（土地利用）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・地域へのメリットがある施設を期待している。温泉施設ができることにより、地域交流の場となる。
・地域交流の場をジャンクション内に整備する場合、この場に適する施設が整備されるのかどうか懸念している。通常は騒音が問題になる公共施設（スポーツ施設等）を作ることで、この場の特性を生かした整備ができる。

環境施設帯の計画に関するアイデア

・環境施設帯の空き地へ区民利用施設を設置するなど、事業により影響を受ける地域にメリットがもたらされることを期待する。

11. 安全・安心（災害・事故時の対応）の課題に対応するためのアイデア

トンネル部の計画に関するアイデア

・トンネル内での災害時の避難方法へ懸念がある。しっかりした避難路が確保されることにより、不安を抑制できる。

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・高速道路内の火災時に消火が遅れると周辺部へ被害が拡大することを懸念している。喜多見6丁目付近の一般道から緊急車両が入れるようにすることで、災害時の対応ができる。
・災害時の避難路について懸念があるため、側道整備を望む。
・異常気象時の対応で外環により地域の雨水等処理系統が分断されるのではないかと心配している。

12. 工事（工事中の環境への影響）の課題に対応するためのアイデア

工事の進め方に関するアイデア

・工事中の騒音が心配である。防音設備の設置や作業時間帯の設定により、騒音による生活への影響を低減できる。

13. 用地・補償の課題に対応するためのアイデア

周辺部の計画に関するアイデア

・農地は土壌や人（所属する組織など）が変わると継続が難しいことへの懸念がある。現在の農地と同条件の代替地の確保により、移転しても農業を続けていくことができる。

用地・補償の進め方に関するアイデア

・計画地内で自動車整備業を営んでいるが、用途地域の規制で近くに移転先がなく、立ち退いても他では商圏が無く商売ができないことへの懸念がある。用途地域を見直して準工業地域の用地を近くに作るなど移転先が確保されることで、商売を続けることができる。
・多摩堤通り周辺の事業所などが商売を継続できるようにする。

・計画地内の敷地に大木があり、移植時に枯れてしまうことを懸念している。枯れた場合の補償が出ることで、枯れた場合の対策が取れるので、大木の移植も可能となる。
・計画地内の敷地に大木があり、移転の際、移植費用がでるのか不安である。移植費用が補償されることで、大木の移植も可能となる。
・敷地の一部分が計画線にかかる場合、残地が売れるかどうかもわからず、不安である。一部分であっても、十分な補償がされることで、生活への不安の代償となる。

PIの進め方に関するアイデア

・スケジュールが早くわかれば、計画的に移転の計画をたてることができる。特に農地や工場の移転先を探すのは時間がかかるため、その点に配慮した情報提供が必要。
・農地の移転先には条件があり、土づくりにも時間がかかるため不安がある。事業化のスケジュールが早く提示されることで、計画的に移転の計画をたてることができる。
・計画地内の事業所を移転するには、資金の準備や用地選定などに時間を要するが、事業化しないと移転準備に入れないことへの懸念がある。事業化するのであれば、早期に事業化決定することで、移転準備に入ることができる。

14. 計画検討の進め方（計画検討全般）の課題に対応するためのアイデア

計画の進め方に関するアイデア

・東名の排気設備がどのようなものになるのか不安がある。中央線トンネルの素晴らしい排気設備をつくった技術力以上の力で対応することで、東名の排気設備への不安を抑制できる。
・低周波音の影響を懸念しているため、他の事例を調べて補償の予算や、地上部の道路に天蓋をかける予算をあらかじめ入れることを望む。
・将来的には、車が減ると思うがその点が考慮されているか不安がある。車両台数の予測等を踏まえた検討により、現実的な交通量に見合った計画をすることができる。

調査の進め方に関するアイデア

・健康への影響などは国交省は専門外の分野であるため十分な調査ができないのではないかと思っている。専門機関である環境省や厚生労働省と連携することで、きちんとした調査を行うことができる。
・調査の信憑性への不安がある。信頼のおける調査業者を選定することで、調査の信憑性を高めることができる。
・モニタリングは第三者機関によって行われるべきだ。第三者機関が出した数値であれば市民も納得しやすいのではないか。
・今まで調査などは問題が起こってから行うなど対応が後手後手であり懸念がある。整備の前から調査を行うことで、問題への早期の対応ができる。生態系調査など長期間を要する調査は早い段階から行う。

15. 計画検討の進め方（意見反映）の課題に対応するためのアイデア

計画の進め方に関するアイデア

・行政が提示した計画案のまま進むことへの懸念がある。第三者機関がつくった複数案に対し、市民が意見を言えるようにすべき。
・直接行政に要求しても思ったものは出てこないし、説明も分かりにくいことに懸念がある。グループ討議でファシリテーターが居るように、住民と行政の間に第三者機関が入り、意見収集やデータ提示などをして欲しい。家電店の店員さんのような信頼できる役割の人が欲しい。

用地・補償の進め方に関するアイデア

・整備後に低周波音等で生活に支障が出た場合、どのような対応がとられるのか懸念がある。被害に応じた対策や助成等の補償を行うことで、生活が成り立つようにする。
・騒音、地盤沈下、地下水の枯渇や溢出など生活への影響と、生活に支障が出た場合の対応を懸念している。補償を行うことで、生活が成り立つようにする。
・大深度部分において、地盤沈下などのアクシデントにより生活に支障が出た場合、どのような対応がとられるのか懸念がある。補償を行うことで、生活が成り立つようにする。
・低周波音の影響を懸念しているため、他の事例を調べて補償の予算や、地上部の道路に天蓋をかける予算をあらかじめ入れることを望む。

PIの進め方に関するアイデア

・検討会終了後も連絡窓口や情報提供、住民が疑問を聞ける場を作って欲しい。
・地域課題検討会終了後の国・都・区の役割と連絡窓口を明確にして、住民から連絡しやすくしてほしい。

その他の進め方に関するアイデア

・外環整備によって大気質等の環境への影響や変化があるのではないかと思っている。整備の前後に調査し比較することで、外環整備の因果関係がわかる。
・トンネル工事中の地盤沈下などが心配である。予期せぬ事態が生じた場合に工事を中断できる仕組みがあることで、被害の拡大を抑制することができる。
・国側が出している大気・騒音・振動などに対するシミュレーション値が本当に守られるのか懸念があるため、コンティンジェンシープランの作成や定期的な観測（予測を超えた際の対策（観測ポイントを含む））を望む。
・自然を壊して人工物を作るのだからいずれ問題が出てくると思うが、その際に行政がきちんと対応してくれるのか不安だ。確実に対応するということを示すべきだ。
・大深度、中深度、浅深度の影響の予測値をたて、事前調査、定期的調査を行い、基準値を超え

た場合に対策をとるということを今後の運営や管理のための計画に位置づけられていないことへの懸念がある。
・問題への行政の対応の仕方に懸念がある。NPO などが問題を見つけ、訴えるのではなく、行政が自ら調査を行い、対応・改善を行うようにして欲しい。

16. 計画検討の進め方（情報の提供）の課題に対応するためのアイデア

PI の進め方に関するアイデア

・行政からの情報発信は、ホームページで検討会での住民の意見を掲載しておらず懸念を感じる。住民の目線にたって発信してほしい。
・福木トンネルのように、途中で計画が変更になっても知らされないことへの不安がある。住民への情報提供を十分に行うことにより、変更された計画内容を把握することができる。
・いつになっても具体的な案が行政から出ないことへの不満がある。いつまでに具体案を示すのか、その日程を明確に示すべき。
・工事の詳細を教えてほしい。

Bグループ

1. 交通（地区交通）の課題に対応するためのアイデア

環境施設帯の計画に関するアイデア

・大蔵５丁目を抜けて多摩堤通りに抜ける道は地元住民に通勤などで日常的に使われており、地区外からの通過交通も多いので、代替の道路を確保すると同時に、周辺の道路の処理を検討してほしい。

2. 交通（広域交通）の課題に対応するためのアイデア

東名ジャンクション以南の進め方に関するアイデア

・現状では東名以南ができなければ地域の環境が悪くなると考えている人が多いようだが、それとは異なる見方、悪化の可能性を示すことができる。東名以南の検討は、しっかりとした事例や以南ができたことを前提としたデータを検証した上で改めて検討する。

3. 環境（大気質）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・ジャンクション全体を地下化し、大気、騒音振動、景観への影響を抑える。

換気所の計画に関するアイデア

・悪影響を分散するという考え方もあるはずなのに、料金所、換気所という排気が出る要素がこの地域に集約されており、現状の換気所の設置位置、数では、この地域だけにしわ寄せがきているように思われる。一定の地域だけが大きな影響を受けない様に、換気所の数を増やしてデメリットを分散する可能性を検討する必要があるのではないか。
・現行案がベストであるならば、現状の換気所の設置位置、数が技術的に最適だという根拠や決定までのプロセスを示す必要がある。

計画の進め方に関するアイデア

・掘割部に中途半端に蓋掛けを行うと、それによってかえって大気汚染の影響を受ける地域が出ることも考えられるため、場当たり的な対策ではなく、総体的な環境悪化への懸念が解消される様な検討を行う。

4. 環境（騒音・振動・低周波音）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・ジャンクション全体を地下化し、大気、騒音振動、景観への影響を抑える。

5. 環境（動物、植物、生態系）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・自然環境の各要素など元に戻らないものには可能な限り手を出さず、現状を保全する。

6. 環境（緑の量）の課題に対応するためのアイデア

環境施設帯の計画に関するアイデア

・蓋掛けした掘割上部を喜多見ふれあい公園の様に活用したり、環境施設帯に単に芝生と松を植えるだけではない緑地計画を行って、地域の新たな資産を生み、緑の環境がより良くなって地域にメリットをもたらせる様にしてほしい。
・環境施設帯の緑地は、これまでのような芝生と松ではなく、地域の緑の環境がより良くなるようなものにしたい。

7. 環境（景観）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・ジャンクション全体を地下化し、大気、騒音振動、景観への影響を抑える。

8. まちづくり（まちづくり全般）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・野川沿いの道は住民の憩いの場となっているため、残してほしい。
・地域の歴史や風景を壊さずに、高めるようなジャンクションにしてほしい。
・地域へのデメリットを最小限にしてほしい。地域にメリットがあるような整備をしてほしい。
・環境施設帯を利用して、生活道路機能が確保できるようにしてほしい。その際には、環境施設帯の効果が弱まることがないように留意してほしい。

環境施設帯の計画に関するアイデア

・蓋掛けした掘割上部を喜多見ふれあい公園の様に活用したり、環境施設帯に単に芝生と松を植えるだけではない緑地計画を行って、地域の新たな資産を生み、緑の環境がより良くなって地域にメリットをもたらせる様にしてほしい。

計画の進め方に関するアイデア

・農協跡地など、計画線外であっても、外環建設に伴って取得した土地に関しては、その後の利用方法も含め、住民に諮りながら検討し、まちづくりに寄与するようなものにしてほしい。

9. まちづくり（地域分断）の課題に対応するためのアイデア

環境施設帯の計画に関するアイデア

・外環整備に伴い分断される生活道路は、環境施設帯を利用して確保することで、生活道路の分断を避け、日常生活の利便性を維持する。
・野川に架かる橋を環境施設帯に確保して現状の機能をできるだけ変えずに維持し、地域が分断されることを避ける。
・喜多見５丁目から砧小学校に通学する児童がいるが、その通学路がどのように確保されるのかという懸念がある。
・外環整備に伴って生活道路が廃止、変更される場合には、利便性が低下しないように代替を確保してほしい。

周辺部の計画に関するアイデア

・大蔵５丁目から喜多見や宇奈根に行く際には日常的に大正橋を利用するため、現状とは位置をあまり変えずにその機能を残し、地域分断しないようにする。
・日常的に使われている道の代替の道路を確保。
・野川に架かる橋は、それぞれの地域の重要な生活の道となっているので、これらの機能はできるだけ変えないように確保する。

10. まちづくり（土地利用）の課題に対応するためのアイデア

環境施設帯の計画に関するアイデア

・散歩道としても使われている野川沿いの道とそこへのアクセス道路を確保し、住民の憩いの場としての環境を守る。

周辺部の計画に関するアイデア

・田園公園が現状のように子どもを安心して遊ばせられる生活環境を維持して存続できるのかという懸念がある。

11. 工事中（工事中の交通への影響）の課題に対応するためのアイデア

工事の進め方に関するアイデア

・工事期間中の工事車両による渋滞や騒音、排ガスについても気になるので、どのようなルートで行き来するのかを明らかにしてほしい。
・工事車両のルートを明らかにする。
・分断されてしまう生活道路は工事中も生活道路の機能を確保し、日常生活に支障がないように検討する。
・工事期間中の工事車両による渋滞や騒音、排ガスについても気になるので、どのようなルートで行き来するのかを明らかにしてほしい。

12. 工事中（工事中の安全性）の課題に対応するためのアイデア

工事の進め方に関するアイデア

・工事の待機車両の路上駐車を防止することで、児童、生徒の安全性が確保できる。待機車両を含めた工事車両の駐車スペースを確保する。
・工事中の子ども達の安全性を確保できるように、スクールゾーンへの工事車両の通行規制などを行ってほしい。
・工事中の地域への影響、特に幼稚園、保育園、小中高等学校の児童、生徒の安全性への影響を最小限に食い止める様に留意し、工事車両数や通過時間帯などを明記した工事計画の情報を住民に周知することで不安の軽減を図る。

13. 用地・補償の課題に対応するためのアイデア

PIの進め方に関するアイデア

・地権者に対しては、個別もしくは説明会などを通じての用地補償などに関する十分な情報提供を行う。

14. 計画検討の進め方（計画検討全般）の課題に対応するためのアイデア

調査の進め方に関するアイデア

・予測方法、B/Cの前提、計算方法が明確に提示され、委員選定を公正かつ明確にした第三者機関による調査結果の検証が行われなければ、外環の必要性を示すために恣意的にデータを操作しているという懸念を解消することはできない。
・外環完成後の影響評価のための物差しとなる現況の正確なデータを収集することで、今後の環境の変化を把握し、問題が起きた際の対処ができる様にする。
・現状のデータは外環から離れた場所で測定しているため、影響がないと言われても信用ができないので、影響が大きいと思われる道路に近い箇所や喜多見小学校や砧小学校など測定地点を増やしてデータを把握し、その数値を反映した計画にしてほしい。
・これまでの調査だけで十分なのかという懸念があるため、季節によって風向きなどの大気の様子が変わることを考慮し、環境調査は年間に複数回実施する。
・完成後に環境が変化するのは明らかで、住民の強い関心事でもある。変化を見るためには物差しとなる建設前のデータをしっかり取る必要があり、調査地点や回数を増やし、納得のいくデータを示してほしい。
・季節によって風向きなどの大気の様子が変わるので、年間に何度か調査をしてデータを示してもらえると納得のいくデータになる。
・先行事例の反省が生かされず、同じ過ちを繰り返すのではないかという懸念がある。予測データは操作が可能であることも考えると、信頼性のある事例検証による影響の把握を行うため、外環が完成済みの区間におけるデータを検証することが必要である。

PIの進め方に関するアイデア

・根本的に外環の必要性に懸念がある。外環の整備効果として示されているデータには恣意性も指摘されており、指標としての信憑性に欠けるので、それらの信頼性と妥当性を事例を示しながら説明してほしい。

15. 計画検討の進め方（意見反映）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・ジャンクション構造の見直しを行う場合でも、その比較検討材料として工事期間や工事車両計画をデータとして取り上げ、工事車両に関する情報は計画に関する情報の重要な要素である事を示す事で、工事期間への不安を軽減する。
・ジャンクション全体を地下化できれば地域への影響は小さくなるはずだが、現計画案の１案だけを押し付けられているようで、そういう可能性が十分に検討されているのかが疑問である。現行案に縛られず、民間からの案を含めた複数案を提示し、それらのメリット、デメリットを科学的なデータに基づいて検討して比較する事で、何がベストな案なのかが判断できる。
・大橋ジャンクションなどの既存ジャンクション構造の採用、ジャンクションのドーム化など、様々な観点から可能性の検討を行う。
・中途半端な対策案では、そのためにしわ寄せが出る地域が生まれるという危惧があるので、全面地下化の可能性を検討する。
・様々なバリエーションの検討を行うことで、一からの見直しをしたことを住民に示し、最終案の納得度を上げることが重要である。地下化だけではなく、大橋ジャンクションの構造などの様々なバリエーションで構造変更の検討を行う。
・行政は現行案に縛られてしまうと思う。民間のアイデアを取り入れるため、コンペを開催し、初期案に拘らない案を複数案検討するべきだ。

換気所の計画に関するアイデア

・現行案がベストな解答であると判断する材料がない。換気所の位置や数に関する計画を複数案提示し、そのメリット・デメリットを科学的データを判断材料に比較検討する必要がある。

PIの進め方に関するアイデア

・防犯対策などの日常生活に関わる問題については、影響の大きい近隣住民の意見を積極的に聞いて対策案に取り入れる。地元住民でなければわからない問題点を把握し、的確な対応ができるようにすることが重要。
・今後も計画に関する事柄を住民同士で話し合い、意見を伝え、情報を提供してもらう場を継続させたい。何らかの形で検討会を継続させる。

16. 計画検討の進め方（情報の提供）の課題に対応するためのアイデア

PIの進め方に関するアイデア

・蓋を開けてみたら想像とは違ったということにならないように、現状でわかっている範囲の情報はできるだけ具体的に示す。換気所の形状については、設計前の現段階であってもある程度想定できるのだから、模型などでも曖昧ではなく具体的に示し、完成後のイメージが住民に伝わる様にして議論すべき。
・情報開示を求めても対応がなされないと不信感が増幅するため、住民が懸念を抱き、情報を求めている事柄については、具体的な根拠を示して誠実な対応を行い、その情報の周知を図る。
・担当者や発言した場によって行政側の見解が変わらないようにすることで行政への不信感を少なくする。住民に対する返答を文書化して記録に残し、公開する。
・調査地点を明確に示すことで、追加の調査を確実に実施することを住民に示し、行政の信頼度を上げる。新たな調査地点の具体的な場所を課題への対応として示す。
・生活設計ができないので、決めるならば早く決めて、それを伝えてほしい。
・工事期間中の工事車両による渋滞や騒音、排ガスについても気になるので、どのようなルートで行き来するのかを明らかにしてほしい。

124

・基本的には作って欲しくはないが、後戻りは難しいと思うので、できるだけデメリットを減らす視点から話をしている。前向きに議論をするためにも、計画案の技術的な妥当性、環境影響調査の信憑性などの十分な情報を開示してほしい。

Cグループ

1. 交通（広域交通）の課題に対応するためのアイデア

東名ジャンクション以南の進め方に関するアイデア

・東名以南の延伸し、外環が整備されることで、首都圏の高速交通網が完成し、渋滞が解消されることが期待できる。
・東名以南の計画と東名東京インターチェンジの利用を合わせて考えることを期待する。
・東名以南を含め、外環を東京湾へ通じさせる計画を大前提として検討してほしい。

2. 環境（大気質）の課題に対応するためのアイデア

換気所の計画に関するアイデア

・人体へのリスクや、PM2.5 への対応をどのようにするのかが心配で、換気所の処理能力が満たないと考えているので、処理方法等で解決することが重要である。
・設置箇所を増やすなど、詳細なデータをもとにリスクが分散できる、環境に配慮した計画・施工をしてほしい。

PI の進め方に関するアイデア

・換気所の設置場所決定の理由を知りたい。

東名ジャンクション以南の進め方に関するアイデア

・外環が東名まで整備された場合と東名以南まで整備された場合と比べて利用交通量を比較した場合、東名以南まで整備されない場合ではジャンクション利用交通量が3倍くらい多いため、大気質への影響を考慮して東名以南を整備して欲しい。

3. 環境（騒音・振動・低周波音）の課題に対応するためのアイデア

トンネル部の計画に関するアイデア

・野川周辺の崖線部分などは地盤が弱いので、むしろ野川直下を通すようにしてほしい。

調査の進め方に関するアイデア

・成城４丁目野川沿いの大深度部分は地盤が軟弱であるため、騒音・振動などの詳細な環境影響調査をしてほしい。

4. 環境（地下水）の課題に対応するためのアイデア

トンネル部の計画に関するアイデア

・野川周辺の崖線部分などは地盤が弱いので、むしろ野川直下を通すようにしてほしい。

調査の進め方に関するアイデア

・成城４丁目野川沿いの大深度部分は地盤が軟弱であるため、地盤沈下などの詳細な環境影響調査をしてほしい。
・井戸等の水質影響調査を実施し、地下構造物がつくられても平常時は勿論、非常時での生活用水が確保されるのか、影響がないのかを確認することが重要である。

5. 環境（動物、植物、生態系）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・せっかくできた自然を壊してほしくない。現在の計画では世田谷区は大深度でやる部分が20%しかない。もっと地下化エリアを増やすことを検討してほしい。
・人工河川である野川は 30 年で自然豊かな川となった。ジャンクションを地下化するなどで、この豊かな野川の自然を残すことを期待する。

6. 環境（緑の量）の課題に対応するためのアイデア

環境施設帯の計画に関するアイデア

・緑地部分を地域に開放して緑地・農地として活用させてほしい。

周辺部の計画に関するアイデア

・事業実施により、自然を失い、景観が壊れることを懸念していることから、保存樹木を積極的に指定して対処することが重要である。

7. 環境（景観）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・景観への影響を低減する方法として地下ジャンクション方式を十分に検討してほしい。

換気所の計画に関するアイデア

・かつてあった田舎の風景を失うことが心配なことから、地域へ構造を公表し、地域と協議しながら、地域の景観に馴染んだ換気所の設置をしてほしい。

8. 環境（環境一般）の課題に対応するためのアイデア

調査の進め方に関するアイデア

・PM2.5 など新たに環境や身体に悪い影響を及ぼすと懸念されるものについては、環境影響調査の項目に入れる検討を進め、検討状況を地域に説明し、人体や環境への影響をきちんと調査し、処理能力が不足しないよう、処理方法を検討することが重要である。
・既存の道路の交通量による人体への影響についてと、これからできる本線における人体への影響の安全性については、同列に考えずに、独自の基準で考えるべきである。PM2.5 の基準がまだできていないのならば、できてから、本計画の安全性の調査をするべきである。その時代に合わせることが重要である。

9. まちづくり（まちづくり全般）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・東京の田舎であった古きよき喜多見の風景（農地、殿山、大六天、雑木林、里山の風景）が外環整備によって失われてしまう場合は、復元する工夫をしてほしい。
・「東京の田舎」の維持と復元をめざし、昔からある資産（農地、小川、里山等）を大切にした地域にする。

周辺部の計画に関するアイデア

・事業実施により、自然を失い、景観が壊れることを懸念していることから、用途や建築の制限を検討して対処することが重要である。

計画の進め方に関するアイデア

・周辺部は、世田谷区全体のまちづくりをわかった上で進めないといけないことから、行政側も世田谷のまちづくりを最も理解している立場のものが深くかかわることが重要である。

10. まちづくり（土地利用）の課題に対応するためのアイデア

環境施設帯の計画に関するアイデア

・昔栄えていた農業がものをつくるという事が失われることが心配であることから、計画によってさらに失われるもの（農業、緑、触れ合い）について、農業をツールに復活、代替することが重要である。
・地上部の利用として、畑をつくって住民に開放し、有効利用と地域還元を考えてほしい。
・緑地部分を地域に開放して緑地・農地として活用させてほしい。

11. 用地・補償の課題に対応するためのアイデア

用地・補償の進め方に関するアイデア

・直接事業対象とならない場合の補償への柔軟な対応。
・土地の一部が事業対象となる場合の補償を厚くする。

12. 計画検討の進め方（計画検討全般）の課題に対応するためのアイデア

計画の進め方に関するアイデア

・最新の技術を駆使することを期待する。
・日本の大動脈である東名高速まで渋滞すると思われる無理なアップダウン、きついカーブ、トンネルの出入り、T字路、三車線に三車線の接続などの過去の計画をあきらめて、きちんとした計画を立て、日本経済に甚大な被害を及ぼさないようにすることが重要である。

調査の進め方に関するアイデア

・大気質をはじめとした周辺地域への環境に関する影響や対策を地域住民だけでなく、関係機関、特に環境や人体に直接関係のある仕事や研究をしている関係機関へ情報を出し、同意を得る仕組みをつくることを期待する。
・今回の計画による環境影響調査だけではなく、現況の清掃工場の排気ガスなど、この地域に影響している全てのことを考慮した複合的な視点に立った環境調査と計画を期待する。
・東名以南が延伸されないまま東名ジャンクションが整備されるとジャンクション周辺の道路が渋滞すると思われ、それらが生活道路へ影響を及ぼすことが心配なので、人口動向や生活道路での将来的な広域的、多角的な交通量調査をすることが重要である。
・騒音・振動などの詳細な環境影響調査。
・騒音・大気については、平均値のデータでない詳細なデータをもとに検討してほしい。
・地質調査や活断層の調査を実施し、地下構造物の影響により、非常時への影響を解決することが重要である。

・中央環状線の例で具体的な数値を見て、評価してから検討し、計画に反映させてほしい。

管理の計画に関するアイデア

・外環本線は、運送用の車両を優先させるなど交通量を管理することにより渋滞緩和してほしい。

13. 計画検討の進め方（意見反映）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・ジャンクションの構造を複数案示して意見を聞いてほしい。
・ジャンクション構造については、今後もPIで意見や案を出し、検討する必要がある。行政側からの案だけではなく、住民側からも複数案出し、やりとりをし、一方通行ではなくキャッチボールしていくことが重要である。地域の意見を聴き、案をまとめる場を存続し、提供していくことが必要である。
・ジャンクション部の構造の検討は複数案を提示するなどして、全体的な視野で自由に話し合うことが重要である。
・現在のジャンクションの計画が進むことで、地域に昔からあった貴重なもの（東京の田舎の風景、自然）が失われることが心配なことから、地域の視点に立ち、地下化も含めたジャンクション構造の見直しや複数案を提示することが重要である。
・東京は日本の玄関口であるのだから、ジャンクション部の構造の検討は複数案を提示するなどして、全体的な視野で話し合うことが重要である。

計画の進め方に関するアイデア

・地域の意見を入れた「課題解決のための考え方と課題の重要度」の中から、「課題への対応の方向性と優先度」のどこが反映されているのか、第三者がきちんと見て、説明をしてほしい。第三者により、地域の意見のどの部分が反映されたのかを判断してもらうことにより、きちんと正確な情報を出す事で、行政への不信感を取り除く必要がある。また、その上で、「課題への対応の方向性と優先度」をベースとしたコンペを実施し、より開かれた計画づくりを実施することが重要である。
・課題検討会の意見は、「参考にします」だけでは困る。課題検討会で出された提案（意見）については、設計段階で、きちんと反映するようにすること。
・課題検討会まで含め、今までPIで進めてきているが、同じ意見を繰り返していて、意見を蓄積しているだけである。そろそろ行政が地域の意見をどう整理し、どこまで進んでいるのか、進捗を地域へ公表することで、ただ意見を蓄積しているという無力感を取り除くことが必要である。
・行政の担当者が変わることで、対応も変わることがないような仕組みづくりをして、継続した討議を続けられるようにすることが重要である。
・課題検討会で討議されたことで回答が求められていることや、「課題の対応の方向性と優先度」の最終版は、一方的にまとめを送るのではなく、きちんと説明する機会を設けて、地域と行政がやりとりすることが重要である。
・事業を進める際には、早い段階から行政と住民との話し合いを行う必要がある。

管理の進め方に関するアイデア

・換気所周辺住民に対して排気ガスに関する補償や優遇措置をとってほしい。
・周辺住民などに排気ガスによる影響が出た場合、補償や優遇処置をしてもらえるか心配である。
・大深度工事の地下水や地盤への影響調査を実施して報告することで、地下水や地盤への影響がどの程度なのか、特に自分たちが居住している場所について、影響がある場合の対応はどうなるのか、情報を出すことが重要である。

PIの進め方に関するアイデア

・課題検討会は法的な根拠もなく、位置づけも曖昧なままですすめられた。このような状態が続くと、計画づくりのための会というよりも、住民の意見をただ聴いたというアリバイづくりのように思われてしまう。計画から設計段階まで地域の意見を聴く会を存続してもらい、それもきちんと行政として位置づけ、地域の不信感を取り除いてほしい。
・今までのような行政主導の会ではなく、より住民が主体となった検討会を進めていく必要がある。
・費用を重視し、時間の省略や手間を省くのではなく、地域と充分協議する時間を設けて、将来を見据えた整備方法について検討することが重要である。

その他の進め方に関するアイデア

・完成後に問題が出た場合の柔軟な対応。
・昔あった環境が破壊されることが心配であることから、オオタカなどの希少生物についてなど、環境に関する影響調査をきちんと実施し、影響がある場合は、対応策や代替案を検討し、報告することが重要である。
・複数案提示されるPI方式ですすめることで、ジャンクション構造なども含め、よりよい案を選択できるようにする。例えば一業者によるPIではなく、大学、広告代理店、研究者などの別の専門家によるPIもすすめ、複数案を提示し、討議できるようにする。メンバーは、課題検討会の中で関心のある人皆が参加できるようにする。

14. 計画検討の進め方（情報の提供）の課題に対応するためのアイデア

PIの進め方に関するアイデア

・行政からの反応がないことや、やりとりができないことが不安であるので、地権者や地域住民に丁寧に対応し、情報提供することでそれらを解消することや柔軟な対応が可能であることを

示すことが重要である。
・新しく住民になる人たちにも正確な情報を知らせるなど、十分な対応をしてほしい。
・トンネル工事による、振動・火災・水質への影響について、事例や実験結果を開示してほしい。
・振動・火災・水質への影響について、事例や実験結果を開示。

Dグループ

1. 交通（地区交通）の課題に対応するためのアイデア

周辺部の計画に関するアイデア

・地域の道路網が未整備の状況では、生活道路の交通量が増大し、静かな住宅街の住環境の悪化が懸念される。都市計画道路などの幹線道路による段階構成を整備して、成城地域の閑静な住宅街の環境を維持してほしい。

2. 交通（広域交通）の課題に対応するためのアイデア

東名ジャンクション以南の進め方に関するアイデア

・東名以南の延伸が進まないとジャンクション周辺等の渋滞による大気質への影響が心配である。川崎では東京湾アクアラインとつながる川崎縦貫道が整備されており、国道15号まで事業中である。外環の東名以南と川崎縦貫道の延伸計画を一本化すれば、効率的だし、事業が早く進むと思う。
・ジャンクション構造の見直しとは別に、工事の影響を軽減させてほしい。東名以南は10年遅れで着工すると説明されているが、その通りなら、この地域では20年くらい工事が続くことになる。騒音、振動だけでなく、周辺の交通にも影響があると思うので、工事期間を少しでも短縮し効率化のために、東名以南と同時に工事してほしい。
・東名以南は10年遅れで工事着工、開通と説明されてきたが、東名ジャンクションから南側は都市計画決定すらされていない。東名以南の着工が遅れると東名以北の工事開始からの通算の工事期間が長くなることが心配である。東京都側を通すのか、川崎側を通すのかなどの調整がとれていないようだが、早く都市計画決定するべきである。
・東名ジャンクション以南への延伸がスムーズに事業化されるのかについて懸念している。計画どおり、10年後に供用開始されるように検討をすすめてほしい。
・東名以南が整備されない状態では、一括整備に較べて地域への環境などの影響が大きくなることが心配である。影響を少なくするために、東名以南の整備を早く進めてほしい。
・東名以南を整備する際に、再度工事を行うのではないかと心配なので、地上部分だけでも同時に整備してはどうか。
・東名地域への影響を軽減するために、東名以南の延伸が確実に推進される必要がある。東名以南の同時着工を含めて検討してほしい。
・当地区の事業化着手と引換えに、東名以南の事業を進捗させるというルールをつくり、東名以南の早期延伸を実現させてほしい。
・東京への交通集中を避けるために、計画上、外環が必要なのかもしれないが、東名以南が開通しないと、現在の大泉ジャンクションのように行き止まりになり、大気汚染などの影響が大きくなるのではないかと心配している。広域的に考えても、東名以南が開通しないと、環状道路として機能しないので、国家プロジェクトとして進めるのであれば、少なくとも第三京浜までの延伸など、東名以南を含めて外環整備時期を早期に示してほしい。行政側の計画が出ていない段階では、賛成・反対の判断ができず、次の段階に進めない。
・東名以南の計画地で、今でも宅地開発が進んでいるのが心配である。東名以南の延伸を進める際に、事業化進捗に影響が生じるかもしれないので、南伸の事業化に関する情報や購入者等は移転が必要となることを周知しておいてほしい。

3. 環境（大気質）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・外環に入る側に料金所を配置することが心配である。料金所には勾配を設けないため、その分、道路延長が長くなり、地上部が増えていることに不安がある。野川の上部を利用するなど、東名高速道路側に料金所を寄せ、地下になる部分をできるだけ増やしてほしい。
・地上部の環境への影響が心配である。地下になる部分を増やすために、野川や多摩堤通りの付け替えも含めて、ランプを東名高速道路の高架下に通す検討をしてほしい。
・地上部の環境への影響が心配である。野川や多摩堤通りの付け替えも含めて、ジャンクションの地下化を検討してほしい。
・地上部の環境への影響が心配である。野川や多摩堤通りの付け替えも含めて、ランプを東名高速道路の高架下に通して、地下になる部分をできるだけ増やしてほしい。
・料金所近くに住んでおり、外環に入る側に料金所を配置することで地域の生活環境への影響が心配である。これまで料金所の地下化を要望してきたが、料金所の職員への健康被害などの理由で地下化はできないとの回答である。地下に料金所が設けられている例はあるので、外環でも地下化して地下になる部分をできるだけ増やしてほしい。
・外環に入る側に料金所を配置することが心配である。料金所を地下に設けることや、蓋をかけるなどして地下になる部分をできるだけ増やしてほしい。
・外環に入る側の掘割部に料金所を配置することで地域の生活環境への影響が心配である。地下になる部分ができるだけ増えるように、料金所のふたかけによる地下化や配置計画の再検討をしてほしい。
・料金所には勾配を設けないため、その分、道路延長が長くなり、地上部が増えている。野川の上部を利用するなど、東名高速道路側に料金所の配置計画を再検討してほしい。

換気所の計画に関するアイデア

・外環の整備に合わせて高速バス等の公共交通網の充実を望んでいる。中長距離バスの路線設置や使用しやすいバス停を整備し、沿線のバス停の出入口に換気所を整備して、換気所の分散を検討して欲しい。
・外環地下部で排出される排気ガスが、地上部に当る地域だけに集中することが心配である。負担の公平性を考えて、沿線に当る場所に換気所を分散させて、当地区の換気所を小規模にしてほしい。

管理の進め方に関するアイデア

・環境への負荷が少ない自動車が今度普及していくと思う。環境への負荷が大きいガソリン車などが外環を通過しないように、10 倍くらいの通行料にして、東名地域への環境影響を軽減させることが重要である。

PI の進め方に関するアイデア

・換気所の整備事例の視察や映像資料（ビデオなど）で説明して欲しい。

4. 環境（騒音・振動・低周波音）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・地上部の環境への影響が心配である。地下になる部分を増やすために、野川や多摩堤通りの付け替えも含めて、ランプを東名高速道路の高架下に通す検討をしてほしい。
・地上部の環境への影響が心配である。野川や多摩堤通りの付け替えも含めて、ジャンクションの地下化を検討してほしい。
・地上部の環境への影響が心配である。野川や多摩堤通りの付け替えも含めて、ランプを東名高速道路の高架下に通して、地下になる部分をできるだけ増やしてほしい。

5. 環境（日照阻害・電波障害・風など）の課題に対応するためのアイデア

換気所の計画に関するアイデア

・換気所が大きな壁となり風の流れが変化することが心配である。丸い形状や向きを変更するなど、風を遮らないデザインを工夫してほしい。

6. まちづくり（まちづくり全般）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・水道橋から野川の上流を望む際に見える、山並み景観を活かした整備をしてほしい。
・旧登戸道の沿道を中心とした喜多見の歴史を伝えていく地域にしたい。

環境施設帯の計画に関するアイデア

・どのような対策を講じても外環は東名地域の環境への影響がゼロにならないことを心配している。周辺地域を対象とした補償を考えるべきであり、地域に不足している施設整備や緑化などプラスの影響を与えるようにしてほしい。

周辺部の計画に関するアイデア

・外環の整備に合わせて高速バス等の公共交通網の充実を望んでいる。中長距離バスの路線設置や使用しやすいバス停を整備し、沿線のバス停の出入口に換気所を整備して、換気所の分散を検討して欲しい。

7. まちづくり（地域分断）の課題に対応するためのアイデア

周辺部の計画に関するアイデア

・喜多見５、６丁目間の生活道路が少なくなるのが心配である。道路網の充実や道路拡幅をしてほしい。
・喜多見５丁目と６丁目をつなぐ大正橋、茶屋道橋、水道道橋が分断されることが心配である。生活道路として利用しているので外環整備後も残してほしい。

8. 安全・安心（災害・事故時の対応）の課題に対応するためのアイデア

トンネル部の計画に関するアイデア

・最近はゲリラ豪雨と呼ばれる局地的な豪雨が多い。これまで想定外といっていた雨が日常的になることも考えられるため、外環のトンネル部分に大量の雨水が流れ込むことも考えておく必要があるのではないか。トンネルに雨水が流れ込んだら、多くの方が犠牲になるのではないかと心配である。想定外の雨量に対して安全な計画にしておく必要がある。

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・外環の地上部で燃料や危険物等を積載した車両の事故発生時に、安全性が懸念されるので、避難スペースや緊急車両の対応策などを確保してほしい。

9. 工事中（工事中の交通への影響）の課題に対応するためのアイデア

工事の進め方に関するアイデア

・現在でも世田谷通りや多摩堤通りは渋滞しており、工事車両が出入りするようになると、さらなる混雑が心配されるので、渋滞の緩和を望む。

10. 工事中（工事中の環境への影響）の課題に対応するためのアイデア

工事の進め方に関するアイデア

・掘り出される土が土壌汚染されている可能性もあり、残土の処理方法を示してほしい。

11. 用地・補償の課題に対応するためのアイデア

計画の進め方に関するアイデア

・立ち退きによる住民の負担が心配である。負担を最低限に抑えるために、地下になる部分をできるだけ増やす工夫をしてほしい。

PI の進め方に関するアイデア

・移転時期等の条件が不明確であり、近くに移転先が見つかるかわからないなど、将来の生活設計が不安である。用地買収に入る時期を明らかにしてほしい。

12. 計画検討の進め方（計画検討全般）の課題に対応するためのアイデア

計画の進め方に関するアイデア

・高架方式から大深度地下方式への変更で、外環沿線の影響が地上部の周辺地域に集中し、不公平な負担を強いられることになった。影響を低減させるために、50年、100年先を見た長期的な視点で、最高の技術を取り入れて、地下になる部分をできるだけ増やし、地域の環境に与える影響を可能な限り少なくすることを望んでいる。
・高架方式から大深度地下方式への変更で、外環沿線の影響が地上部の周辺地域に集中し、負担の公平性が欠れていない。不公平な負担を強いられることになった。影響を低減させるために、50年、100年先を見た長期的な視点で、最高の技術を取り入れて、地下になる部分をできるだけ増やし、地域の環境に与える影響を可能な限り少なくすることを望んでいる。
・ETC の普及やタグを使用した課金システムが開発されれば、料金所自体が不要になるかもしれないので、料金所の配置計画を再検討してほしい。
・外環に入る側に料金所を配置することが心配である。ETC の普及やタグを使用した課金システムが開発されれば、料金所自体が不要になるかもしれないので、現計画よりも地下になる部分を増やしてほしい。
・換気所には脱硝・脱塵装置など最新技術の浄化装置を設置して、換気所からの排気ガスの影響を少なくすることが必要である。
・外環の事業化は 15 年以上にわたる長期的なものであり、その間に技術革新や人口動向が変化し、10 年後 20 年後の社会がどのようになっているか見当もつかない。現段階で地上部の設計をしても、外環が完成する頃には、最新技術でなかったり、交通需要が低下していたり、現在のような料金所が必要なくなっていたりすることなどが考えられるため、社会情勢の変化に柔軟に対応できるような計画にしてほしい。このため、地下トンネル部分を先行して着工しておいて、ジャンクション部の工事は最後にまわし、必要となった段階で、その時の社会情勢に合わせて地上部の計画を再度、設計してほしい。
・人口減少等による交通量や、電気自動車などの普及により環境負荷が少なくなるかもしれない。必要となる環境対策を見直して、まずは1／10程度の換気所を設置し、必要に応じて大きくしていくことが必要である。
・東名以南の整備が放置される可能性もあるので、東名以南が整備されないことも想定して最善の対応を考えるべきである。

調査の進め方に関するアイデア

・フルジャンクションを想定した環境アセスの実施。
・圏央道の整備進捗も含めて交通体系を予測し、東名以南の計画見直しの検討も必要である。

工事の進め方に関するアイデア

・現在の計画は上下線で 2 本のトンネルを掘る計画である。暫定的に 1 本だけ整備を進め、上下 1 車線ずつで供用し、その効果と影響を確認しつつ信頼性の高い整備が進められることを望む。

13. 計画検討の進め方（意見反映）の課題に対応するためのアイデア

計画の進め方に関するアイデア

・高架方式から地下方式へと都市計画が変更時点で、ジャンクションの構造は最良のものと説明されていた。しかし、本当に最良のものがどうか判断できないし、課題検討会で出された住民の意見を踏まえて、地中化などをいっそう進めた変更案を出してほしい。地元住民の意見を踏まえて影響を最小限に抑えるものになることを期待している。
・課題検討会で出された意見が確実に反映できるか心配なので、行政が計画を検討していく経過を住民が監視できる仕組みが必要だと思う。
・課題検討会で出された意見を踏まえて、行政はこれまでの計画内容を再検討することになると思うが、その結果として、「反映した内容とその理由」「反映しなかった意見とその理由」を説明会などの場所を設けて、説明してほしい。
・検討会を通して出された意見を聴くだけでなく、計画内容に反映することを事業者が約束することが必要である。さらに、計画に反映できない場合は、事業化を停止するなどの条件を設けたり、別の形での補償を担保するなどを明確にしてほしい。

管理の進め方に関するアイデア

・説明会では、さまざまな質問に対して「大丈夫である」と回答しているが、整備後に環境への

影響が発生した場合の対応策が必要である。

PIの進め方に関するアイデア

・いったん課題検討会が終了してしまうと、これまで積み重ねてきたものがリセットされてしまう気がする。今後も積み重ねが必要であり、課題検討会を続けるべきだと思う。
・事業化の節目にあたる段階では、地域説明会より前に、意見を言える場を設けてほしい。また新しい人を集めて議論するよりもこれまで課題検討会で議論してきた経過を把握している検討会メンバーを対象に行ってもらうと効率的だと思う。
・完成後に現在では想定できない問題が発生するだろう。モニタリングだけでは不十分であり、想定外の問題に対応できる体制を備えるべきである。そのためにも、完成後もＰＩ継続すべきである。

その他進め方に関するアイデア

・各地で新しい道路ができると新しい公害が発生しているが、症状が明らかとなり、原因究明や対策が講じられるまでに長い時間がかかる。長期的に観測を続けることが必要である。

14. 計画検討の進め方（情報の提供）の課題に対応するためのアイデア

PIの進め方に関するアイデア

・東名以南に当たる宇奈根では、区画整理が終わったばかりで建売住宅が販売され続けている。外環建設に係りうる土地を購入すると、10～15 年後に立退きになり、生活が大きく変わることになり、かわいそうである。外環の事業化の情報を知らされているのか心配なので、外環に関する説明をしておくべきだと思う。
・事業がどこまで進んでいるのかといった情報についても、きちんと情報提供してほしい。

Eグループ

1. 交通（地区交通）の課題に対応するためのアイデア

周辺部の計画に関するアイデア

・外環整備に伴う周辺の新規道路を行なわなければ外部からの自動車が流出入しないので、交通量増大に伴う諸問題の発生を防ぐことができる。

2. 交通（広域交通）の課題に対応するためのアイデア

東名ジャンクション以南の進め方に関するアイデア

・東名以南の外環計画はアクアラインに直結するなど、利便性の高い計画にしてほしい。
・東名以南の外環計画は大深度地下を利用した道路にするなど、環境に配慮した計画にしてほしい。
・東名南伸を同時に検討することにより、外環建設による地域への影響を軽減することができる。

3. 環境（大気質）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・ジャンクションの構造物を覆うなどにより、環境悪化（大気質）を最小限にしてほしい。
・ジャンクションの全面地下化できない理由が一定速度の通行を確保するために必要な曲線部の半径が確保できないことであるのならば、制限速度を下げればいいのではないか。速度が下がれば排気ガスや騒音、振動などにも効果が期待される。
・ジャンクションをできる限り地下化することにより、地域環境への影響を軽減することができる。野川が地下化の障害になっているのであれば、同時に野川も改修することにより、地下化が可能になるのではないか。
・ジャンクションを地下の螺旋状の構造することにより排気ガスの地域への拡散を防ぐことができる。
・ジャンクション部分を地下化するなどにより、地域への影響を最小限にしてほしい。
・東名高速道路もあわせてジャンクション部分を地下化し、上部を公園として整備するなどにより、環境悪化を最小限にしてほしい。
・東名高速道路もあわせてジャンクション部分を地下化するなどにより、環境悪化を最小限にしてほしい。
・堀割部への蓋かけにより、周辺地域への排気ガスや騒音の影響を軽減できる。
・ETC化することにより、料金収受に伴う自動車の加減速時の排気ガスを制限できる。
・料金所等の現計画の堀割部分を地下化することにより、外環からの排気ガスによる大気質への影響をなくすことができる。

環境施設帯の計画に関するアイデア

・環境施設帯に高木を植えることにより、外環整備後の大気質への影響を軽減することが期待できる。

換気所の計画に関するアイデア

・地域の特性を踏まえた様々な気候条件によるシミュレーションを行うことにより、大気質への影響について厳密に分析・検証でき、適切な換気所の高さ等を検討することができる。
・模型を利用した風洞実験を行うことにより、適切な換気所の高さ等を検討することができる。
・シミュレーションはソフトだけでなく、実物の模型を作成し風洞実験等をすること。実際との誤差に対しては責任(担保)を明確にしておくこと。
・トラブル発生時のために換気所のリスクを分散。
・トラブル発生時のために換気所のリスクを分散した方がよい。
・外環区間全体の中央部に換気所を集約的に設置して適切に処理することにより、各地域に換気所が無いため環境影響（大気質）を受ける範囲を地理的に小さくすることができる。また、排出ガスの処理も効率的に行うことができると考えられる。
・換気所が縦流式で設置数が少ないと、故障時のリスク、地域の一箇所に集中して排出ガスが留まるといった懸念がある。換気所を横流式の換気方式して分散配置することにより、故障時のリスク回避や環境影響を被る地域の負荷を分散（小さく）ができる。換気所の分散配置に伴って用地買収が発生する場合は、既存の公共用地（公園、汚水処理場、焼却場など）を有効利用することにより、立ち退き戸数を減らすことができる。
・換気所を分散配置した場合の分析により、喜多見地区における大気質による影響のリスク軽減が可能かどうか厳密に検討することができる。
・他地区を含め換気所を分散配置することにより、喜多見地区の大気質悪化のリスクを現計画より軽減することができる。

周辺部の計画に関するアイデア

・大気質の汚染による健康被害が考えられる場合は、喜多見小学校を移転することにより被害を防止できる。
・道路から近い喜多見小学校が外環開通により、さらに大気質が悪化することが想定される場合、影響がより少ない場所に移転することにより、こどもたちへの健康被害の心配が軽減できる。
・喜多見5丁目を中心として、公園や農地による緑環境の確保をすすめるなど、大気汚染を緩和する対策を講じてほしい。

管理の進め方に関するアイデア

・環境に配慮した車の通行の優遇制度等を設けることにより、大気質の汚染等環境影響の軽減に寄与できる。

4. 環境（騒音・振動・低周波音）の課題に対応するためのアイデア

トンネル部の計画に関するアイデア

・計画線を野川の下部にしたり、トンネルを2層構造とする計画に変更したりするなど、低周波音や振動の問題を軽減した計画にしてほしい。
・野川沿いの大深度地下は、地盤が脆弱であり、振動や低周波等による環境や生活への影響が予測不能である。着工後に地盤沈下・陥没・地震による液状化等、致命的問題発生の可能性が大である。トンネルを２層構造とする場合の有効性等を明らかにすることにより、旧案との優位性を住民等が知ることができる。

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・ジャンクションの全面地下化できない理由が一定速度の通行を確保するために必要な曲線部の半径が確保できないことであるのならば、制限速度を下げればいいのではないか。速度が下がれば排気ガスや騒音、振動などにも効果が期待される。
・ジャンクションをできる限り地下化することにより、地域環境への影響を軽減することができる。野川が地下化の障害になっているのであれば、同時に野川も改修することにより、地下化が可能になるのではないか。
・ジャンクション部分を地下化するなどにより、地域への影響を最小限にしてほしい。
・堀割部への蓋かけにより、周辺地域への排気ガスや騒音の影響を軽減できる。
・料金所を無人化(ETC)による料金所部の幅員の減少が蓋かけも可能にし、周辺地域への騒音の影響を軽減できる。

5. 環境（地下水）の課題に対応するためのアイデア

トンネル部の計画に関するアイデア

・野川沿いの大深度地下は、地盤が脆弱であり、振動や低周波等による環境や生活への影響が予測不能である。着工後に地盤沈下・陥没・地震による液状化等、致命的問題発生の可能性が大である。トンネルを２層構造とする場合の有効性等を明らかにすることにより、旧案との優位性を住民等が知ることができる。

6. 環境（緑の量）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・特にジャンクション部は、盛り土構造で法面を緩い傾斜にすることによって植樹を増やし、周辺の緑山等の自然と一体的な緑豊かな地域環境が形成されるように事業を実施してほしい。

環境施設帯の計画に関するアイデア

・既存樹木をなるべく多く残すことにより、外環整備による潤いある生活環境の喪失を防ぐことができる。

周辺部の計画に関するアイデア

・「生産緑地」を買い取るなどにより、自然環境・景観保全に加え、排出ガスを吸収する農地や緑地を極力保全することができる。
・現在の農地を活用して緑豊かな大規模公園を整備。
・現在の農地を活用して緑豊かな大規模公園を整備するなど、外環整備により失われる緑を代替する緑を創出してほしい。
・仙川及び野川の両岸に植樹し、右岸に次大夫堀公園一帯の緑をつなぐ良好な遊歩道を整備するなどにより、緑と触れ合える環境をつくってほしい。
・外環道周辺の私有地の緑とのつながりも考慮して周辺の緑を最大限保全・創出してほしい。

7. 環境（景観）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・ジャンクション部分を地下化するなどにより、景観に配慮した計画としてほしい。

環境施設帯の計画に関するアイデア

・環境施設帯に高木を植樹するなどにより、外環整備による大気質の汚染、景観の悪化に配慮した計画としてほしい。

8. 環境（環境一般）の課題に対応するためのアイデア

調査の進め方に関するアイデア

・排気ガスが周辺地域の温度に与える影響を調査してほしい。

9. まちづくり（まちづくり全般）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・東名高速道路が地下化ができれば、外環整備によるデメリットだけでない、地域へのメリットがある。
・今より環境を良くするために既存東名高速道路の地下化による完全地下化をアメリカ・ボストンにあるセントラル・アーチェリーの老朽化（築 50 年）建替工事での実例にならい、設計等コンペなどを行い、真剣に検討すること。同様な事例はサンフランシスコ、シアトル、ニューヨーク、ソウルなどにもあり世界の先進国の潮流である。都市再生の切り札にもなっている。画期的なモデルを外環で世界に。

環境施設帯の計画に関するアイデア

・環境施設帯に桜を植えることにより、将来、人が集まる魅力的な場所になり、地域にとってはメリットがある。
・外環の整備により、生活環境や景観だけでなく地域に残された貴重な原風景・生態系の喪失が懸念される。環境施設帯を活用した代替措置により、地域の原風景、動植物・昆虫を含めて地域の自然環境を保全できる。

周辺部の計画に関するアイデア

・外環整備を契機として、高圧線も地下化するなど、より地域がよくなるようにしてほしい。
・外環自体以上に周辺部の道路整備によって、沿道の商業施設等の立地も誘発し、生活環境だけでなく自然・景観が大きく失われる懸念がある。また、大気汚染による子供たちの健康被害が特に心配である。外環周辺の新規の道路整備を極力行わないことにより、生活環境の平穏を保つとともに、大規模商業施設等の立地による旧来の豊かな自然環境や景観を保全することができる。

10. まちづくり（地域分断）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・ジャンクション部を地下化することにより、コミュニティの分断や生活利便性の悪化など地域住民への影響を大幅に軽減できる。
・料金所部分（幅員が広い）の地域分断に対して、橋を架けるなどの対応が必要だろう。

周辺部の計画に関するアイデア

・ジャンクション周辺など外環道により分断される最寄のバス停までのルートに代替するバス運行を検討するなど、地域の交通利便性を確保してほしい。
・バス路線（例：成城学園前～二子玉川）を新設するなどにより、外環整備により分断される地域の交通利便性を向上させてほしい。

11. まちづくり（土地利用）の課題に対応するためのアイデア

周辺部の計画に関するアイデア

・「生産緑地」を買い取るなどにより、自然環境・景観保全に加え、排出ガスを吸収する農地や緑地を極力保全することができる。

12. 安全・安心（災害・事故時の対応）の課題に対応するためのアイデア

トンネル部の計画に関するアイデア

・野川沿いの大深度地下は、地盤が脆弱であり、振動や低周波等による環境や生活への影響が予測不能である。着工後に地盤沈下・陥没・地震による液状化等、致命的問題発生の可能性が大である。トンネルを２層構造とする場合の有効性等を明らかにすることにより、旧案との優位性を住民等が知ることができる。
・大型車や危険な物品を運搬する車の事故に道路構造は十分なのか懸念される。「外環」は大深度地下なので大型車や危険な物品を運搬する車の通行を不可にするとか、低公害車・電気自動車の通行を無料・割安にする等の先進的な取り組みで環境に与える負荷を軽減してほしい。また、スピード規制をした方がよい。

管理の進め方に関するアイデア

・特に大深度地下での交通事故発生時に被害の拡大が懸念される。大型車や危険物運搬車両に対して通行規制を行うことにより、交通事故による甚大な被害を減らすことができる。

13. 工事中（工事中の安全性）の課題に対応するためのアイデア

工事の進め方に関するアイデア

・工事中に発生する可能性がある様々な事故の危険についての情報を事前公開することにより、予防対策の充実に役立ち、万一事故が発生した際に地域住民等が落ち着いて行動することができる。
・工事中に発生が予想される被害（酸欠空気、硫化鉄による硫酸の噴出、膨大なコンクリートによる推進汚濁等々についての情報公開を。

14. 計画検討の進め方（計画検討全般）の課題に対応するためのアイデア

計画の進め方に関するアイデア

・外環整備にあたってはETCの義務化や制限速度を下げるなどの従来の高速道路の常識にとらわれない対応をしてほしい。
・東名以南を整備した場合の構造物も考慮して検討すべきである。

調査の進め方に関するアイデア

・大気質に関する観測データを時系列で整理し、不足するデータは補うなどにより、不安を解消してほしい。
・大気質に関する観測を行う測定器を国分寺崖線と外環に挟まれる地域に設置して、地域の大気質の状態を管理してほしい。
・低周波はマンション等の建物自体の杭（地下の）を伝わって建物全体が振動すると、建築家から仄聞している。野川沿いのマンション（パークシティ成城）には現在多くの世帯が居住しているため、乳幼児・高齢者・病人等の神経、身体に及ぼす影響等が懸念される。振動・低周波による厳密な予測調査を実施することにより、影響の無いことが証明できれば安心できる。影響のあることがわかれば、事前に適切な措置を講じることができる。
・東名高速道路開通前後の騒音データと測定方法を参考に、外環整備による騒音の増加量を的確に推定してほしい。

15. 計画検討の進め方（意見反映）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・ジャンクションの構造（全面地下化、半地下化、ループ化など）について複数の案をもとに、比較しながら検討できると分かりやすい。
・複数案の模型を検討することにより、各計画の長所・短所が比較検討でき、現計画より影響の少ない計画に変更できる可能性がある。

計画の進め方に関するアイデア

・今後、住民等が実質的に外環事業に関わり続け、様々な課題を解決するために意見がどれだけ反映されるのか心配。住民側が設計コンペ等で代替案をつくることは、行政案との客観的な比較検討ができ、最良案を採用することができる。
・今後、住民等が実質的に外環事業に関わり続け、様々な課題を解決するために意見がどれだけ反映されるのか心配。プロジェクト終了まで行政担当者が同一者であることにより、住民側との情報・課題の共有、責任所在の明確化、信頼関係等の面で期待できる。

PIの進め方に関するアイデア

・課題検討会その後。今後も何らかの形で検討に関わり続けるために課題検討会アフターを続行すること。その際は以下の実施形態を採用すること（本来のＰＩに戻る）
①他省も含めた検討会：今までの国交省主催の課題検討会で得た問題点を叩き台として、責任ある回答を得るため、今後は他省（環境省、厚生労働省、財務省等）が一同に集まる検討会議とする。
②住民側も設計業者を指定可とする：設計案もコンペで募集する、あるいは住民側が設計業者を選択して経費は行政側が支払う方法をとること。外国には住民側が代替案を法律化している。
③行政側責任者の長期化：行政側の責任担当者はプロジェクトが終了するまで長期間にわたり同一者とする。

その他進め方に関するアイデア

・これまでの環境影響調査の予測値と外環供用後の観測値の間に差異があることが懸念される。ソフト・ハード両面でのシミュレーションを行うことにより、より厳密な予測値が得られる。もし、予測値と供用後の実際の観測値に差異があっても改善措置が図られることが約束されていれば安心である。
・今後、住民等が実質的に外環事業に関わり続け、様々な課題を解決するために意見がどれだけ反映されるのか心配。他省が一同に集まる検討会議を開催することにより、環境やコストなど多様な課題の早期解決が期待できる。

16. 計画検討の進め方（情報の提供）の課題に対応するためのアイデア

PIの進め方に関するアイデア

・地域住民が納得するまで、計画内容や経緯を説明してほしい。
・将来における大気質の推定データから想定される将来のおおよその環境を疑似体験できる地点を示してほしい。
・計画の変更を地権者や地域住民など直接影響がある関係者に周知してほしい。

Fグループ

1. 交通（広域交通）の課題に対応するためのアイデア

東名ジャンクション以南の進め方に関するアイデア

・全面地下化や東名以南の計画を進め、検討すべき課題（案）にでている大半の課題を解決する。
・東名以南の整備を同時に考える。
・東名以南を計画する際には、インターチェンジ設置など、周辺住民の利便性向上を考慮してほしい。
・用賀周辺の渋滞や交通集中問題と東名以南の整備を同時に考えてほしい。

2. 環境（大気質）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・ジャンクションを全面地下化すれば谷戸に排気ガスがたまることが解消される。
・外環ができたら砧小と喜多見小の間に排気ガスがたまるのではないか。そうならないために、ジャンクションを地下化してほしい。住みよい喜多見にしたい。
・掘割部に蓋をかけ、排気ガスの漏れ出しを減らすことが重要。
・行政の案は課題を「個」で捉えているが、もっと全体的な視点から考えるべきだ。個々の優先度だけでなく決めるべき問題を列挙した計画とすべき。ジャンクション地下化で大半の問題が解決される。砧公園や厚生年金プールなど公用地の地下を通すなどの工夫で、全面地下化をする。全面地下化をすれば立ち退きも少なくなるしコストも抑えられる。予算が余ったらまわすべきところにまわせばよい。
・全面地下化すれば検討すべき課題（案）にでている大半の課題が解決する。
・連結路の１本でも２本でも大深度のまま通し（東名高速に連結する一部分だけ地上に出る）、検討すべき課題のほとんどを解消する。

換気所の計画に関するアイデア

・換気所に脱硝装置、フィルターなどを設置し、換気所の排気ガス処理方法・能力を高める。
・３ヶ所の換気所に排気ガスを集中して出すことが問題。なぜ集中して出すのか。なぜ３ヶ所しかないのか説明がない。３ヶ所に集中して出す根拠を説明すべき。
・換気所が故障したとき、途中の路線で事故が起こったとき、どのように排気するのか。事故があった場合、横流式のほうがドライバーにとっては安全性が高いのではないか。縦流式では排気ガスがこもったままになってしまうのではないか。排気方法としては横流式を採用してほしい。
・換気所が縦流方式だと排気ガスが漏れ出して喜多見に住めなくなるのでは。横流でも、２割は外に出てしまうと聞いた。換気方式を練り直してほしい。
・換気所の箇所数を増やし、１カ所あたりの規模が小さくなることで、騒音への影響が低減することを期待。
・換気所の箇所数を増やすことで、中央高速から東名高速までの排気ガスを１箇所で処理していた負荷を分散することができる。中央環状線の例を見て現在の換気所の処理能力に対する住民の不安に応える。
・換気所の数が今の３箇所でよいか懸念がある。事業化決定前に換気所を数箇所に増やす。換気所の変更は都計変更や、コスト、手続き、用地確保などもあり難しい問題だが事業化前に問題提起しておきたい。
・換気所の排気システム構造の説明に納得できない。詳細設計はこれからだと言うが、それならどうして地上へ出るランプの排気が漏れないようになっていると言えるのか。今の基準で設計したというが何をどのように設計したのか理解できない。ずさんではないか。何をどのように設計したのか市民が理解できるように説明すべき。
・今の排気方式では、開口部からの排気の漏れだしが心配。換気所の方式を見直すべき。
・縦流式でも横流式でも関係ない。６kmに１つでは排気が十分か心配だ。６kmで換気所１本のデータの根拠を出してほしい。納得ができるように。口で「大丈夫」だけでは信じられない。
・換気所からの騒音や大気への影響が心配。騒音・煤塵についてフィルターをかけて実際に出る量を減らす。
・換気所からの排気ガスが落ちる範囲が心配である。全区間を通して排気が落ちる場所に関する情報提供をしてほしい。
・換気所から吹き上げられた排気ガスが、海風によって地域に流される影響を考慮し換気所の能力や高さなどを検討することで、少し離れた成城から日大商学部のあたりに落ちるのではないかという住民の不安に応えることが重要。

計画の進め方に関するアイデア

・東名以南ができると換気所が増えるはずである。東名以南ができた時も含めて換気方法の詳細を説明してほしい。

調査の進め方に関するアイデア

・排気ガスの影響については、換気所からの排気のみならず東名高速道路からの排気ガスなど、影響が広範囲にわたることを考慮し、現状の影響も考慮した調査をしてほしい。
・世田谷通り周辺の谷戸部分に現状でも汚染された大気が流れ込んでいるのではないかという環境への懸念に対して、平面だけでなく立体的地形を考慮に見るなど、十分な調査が必要である。
・排気ガスの影響を的確に調査できる地点で継続的に観測し、現状の排気ガスの影響に関する住民の不安を軽くすることが重要。

PIの進め方に関するアイデア

・換気計画における危機管理、リスク対策について既存の説明文だけでは読み取れない。理解できないことへの不安、不満がある。換気計画には、人的ミスや機械の故障があった時の対応策も含めることが重要。また、換気所のフィルターが目詰まりして換気能力が低下し、料金所付近から排ガスが流出しないか心配。換気所のフィルターが目詰まりした場合の対策を知りたい。換気所が1カ所しかないことで災害時や故障時に換気ができなくなることが心配。
・換気所のしくみ、排出方法、性能について既存説明文では読み取れない、理解できない。そのことへの不安、不満があるので、料金所付近や浅深度部分の排ガスがそのまま周辺地域に流れ出るのではないかと心配。浅深度部分の排ガスの流出対策とその効果を知りたい。また、換気計画が十分であるかどうかわからないので、後々、換気所が複数箇所に計画変更されるのではないかと心配。換気計画を具体的に知りたい。
・換気所のフィルターが目詰まりして換気能力が低下し、料金所付近から排ガスが流出しないか心配。換気所のフィルタが目詰まりした場合の対策を知りたい。換気所がひとつしかないことで災害時や故障時に換気ができなくなることが心配。
・換気所の性能に関して市民が理解し納得できる説明をし、換気所の現状計画における排気ガス処理方法・能力に対する住民の不安を軽くする。
・排気ガスの処理方法について市民が理解し納得できる説明をし、排気ガスの漏れ出しに対する住民の不安に応えることが重要。

3. 環境（騒音・振動・低周波音）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・行政の案は課題を「個」で捉えているが、もっと全体的な視点から考えるべきだ。個々の優先度だけでなく決めるべき問題を列挙した計画とすべき。ジャンクション地下化で大半の問題が解決される。砧公園や厚生年金プールなど公用地の地下を通すなどの工夫で、全面地下化をする。全面地下化をすれば立ち退きも少なくなるしコストも抑えられる。予算が余ったらまわすべきところにまわせばよい。
・全面地下化すれば検討すべき課題（案）にでている大半の課題が解決する。

換気所の計画に関するアイデア

・換気所からの騒音や大気への影響が心配。騒音・煤塵についてフィルターをかけて実際に出る量を減らす。

PIの進め方に関するアイデア

・換気所の性能に関して市民が理解し納得できる説明をし、換気所の騒音に対する住民の不安を軽くする。

4. 環境（動物、植物、生態系）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・行政の案は課題を「個」で捉えているが、もっと全体的な視点から考えるべきだ。個々の優先度だけでなく決めるべき問題を列挙した計画とすべき。ジャンクション地下化で大半の問題が解決される。砧公園や厚生年金プールなど公用地の地下を通すなどの工夫で、全面地下化をする。全面地下化をすれば立ち退きも少なくなるしコストも抑えられる。予算が余ったらまわすべきところにまわせばよい。
・現在の生態系を保全できるよう緑化対策を行いたい。緑の減少により、鳥のえさとなる虫が減り、結果鳥も減ってしまう。
・野川周辺に生息しているオオタカをはじめとした、ウグイス、カッコウ、モズクなどの野鳥の生息環境を残すことが重要。

環境施設帯の計画に関するアイデア

・現在の生態系を保全できるよう緑化対策を行いたい。緑の減少により、鳥のえさとなる虫が減り、結果鳥も減ってしまう。

5. 環境（緑の量）の課題に対応するためのアイデア

環境施設帯の計画に関するアイデア

・現在の生態系を保全できるよう緑化対策を行いたい。緑の減少により、鳥のえさとなる虫が減り、結果鳥も減ってしまう。

6. 環境（景観）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・行政の案は課題を「個」で捉えているが、もっと全体的な視点から考えるべきだ。個々の優先度だけでなく決めるべき問題を列挙した計画とすべき。ジャンクション地下化で大半の問題が解決される。砧公園や厚生年金プールなど公用地の地下を通すなどの工夫で、全面地下化をする。全面地下化をすれば立ち退きも少なくなるしコストも抑えられる。予算が余ったらまわすべきところにまわせばよい。

7. 環境（環境一般）の課題に対応するためのアイデア

調査の進め方に関するアイデア

・PM2.5について東名ジャンクション付近で測定し、PM2.5の影響に対する住民の不安に応える（基準を厳しくする）ことが重要。
・アセスは想像の域でやっている。信じられない。不信が払拭できるようにして欲しい。調査は、できたものについても基準が見直されたら、その後は新基準を用いた対応が必要である。

8. まちづくり（まちづくり全般）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・野川とハケが近いのはここと小金井だけなので、国分寺崖線景観基本軸・緑の生命線・野川・湧水・景観を複合的に保全したい。
・上り、下りのうち１本でも大深度のままで砧公園や多摩川の下を通して川崎につなぐことでジャンクションの規模を小さくし、地上権にかかる部分も少なくする。大深度化により残った地上部は緑化や街づくりなどに有効利用する。
・南行きの東名上りと北行きの上り線を砧公園で下げ大深度でつなぐことで、ジャンクションの規模を小さくし、地上権にかかる部分を少なくする。大深度化により残った地上部は緑化や街づくりなどに有効利用する。

9. まちづくり（地域分断）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・行政の案は課題を「個」で捉えているが、もっと全体的な視点から考えるべきだ。個々の優先度だけでなく決めるべき問題を列挙した計画とすべき。ジャンクション地下化で大半の問題が解決される。砧公園や厚生年金プールなど公用地の地下を通すなどの工夫で、全面地下化をする。全面地下化をすれば立ち退きも少なくなるしコストも抑えられる。予算が余ったらまわすべきところにまわせばよい。

10. 工事中（工事中の交通への影響）の課題に対応するためのアイデア

工事の進め方に関するアイデア

・周辺地域において、工事車両による事故など、日常生活への影響が懸念される。工事車両数が非常に多いので、搬入出は東名高速道路に直行するなど、周辺地域の道路に工事車両が流入しないよう考慮してほしい。
・東名高速道路に工事用車両の搬出入経路を設置し、周辺地域への工事車両の流入を抑制する。

11. 計画検討の進め方（計画検討全般）の課題に対応するためのアイデア

計画の進め方に関するアイデア

・交通渋滞解消策として道路造り以外の方法（人口集中軽減、公共交通機関などへの乗り換えなどのソフト対策など）も考慮して計画を立てることが重要。
・コスト削減はトータルでみればまだやれることがあるはず。事業化決定前に再検討してほしい。換気所の見直しなど健康に直面する事柄などは計画の中でも重要な事業であるはず。事業の優先度をみて検討してほしい。
・コスト削減はトータルでみればまだやれることがあるはず。事業化決定前に再検討してほしい。換気所の見直しなど健康に直面する事柄などは計画の中でも重要な事業であるはず。事業の優先度をみて検討してほしい。
・税金の無駄遣いによる利用料の高騰など、長期的に見てコスト面で無駄のないように十分検討してほしい。
・換気所の排気システムは、現在の基準を満たし、最悪のケースを考慮して設計したというが、将来の基準で考えてほしい。基準をぎりぎり満たすだけでなく、影響ゼロを目指してほしい。換気所の排気システム設計に使う基準は最新のものにする。また、基準が変わりそうだという動きが出たその都度、最新の基準を満たせる排気システムに改良する。

調査の進め方に関するアイデア

・換気所からの排気ガスと東名高速道路などからの現状で出ている排気ガス影響も考慮した調査を要望。
・東名高速からの排気ガスの状況を考慮して計画検討し、現在の排気ガスの影響も考慮した計画にすることが重要。
・ボーリング調査地点を大深度、浅深度の部分の両方に増やすことで、外環の整備による地下水への影響に対する住民の不安に応えるとともに、もし影響が出た場合の対策をすぐ取ることができる。
・地下水の上下変動に対する影響を調査することで、外環の整備で地下水の水位が上昇し、東京駅のようにトンネルの構造物が浮いてしまうのではないかという住民の不安に応える。
・本来調査すべき、影響を受けるであろう場所で調査をまだしていない事への不安、不満があるので、大気質調査については、今回の計画により最も影響が懸念される大正橋付近でも調査してほしい。
・調査地点を次大夫堀公園からジャンクション付近に変更するなど、ジャンクション設置による環境影響評価を現計画に即して的確に把握してほしい。

12. 計画検討の進め方（意見把握）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・ジャンクション部の複数案を提示し、意味のある議論を進める。

計画の進め方に関するアイデア

・計画について余り知らない人は議論をしていてもピントが外れることがある。住民間および住民と行政間の相互のためにも直接情報交換をし、ミゾが生まれないようにする。
・行政が出す情報が住民に伝わっていない。ファシリテーターなどを通さずに行政と直接話ができるようにすべき。
・今の検討会のようにグループで話すこと自体は悪いと思わないが、もっと行政と直接のやり取りがしたい。今後もこの会は続けてほしいが、意見をまとめて、書類で回答するよりも、その場で回答がもらえるようにしてほしい。

PIの進め方に関するアイデア

・重大な心配事がたくさんある。（地下化、換気所など）説明会を事業化決定前（国幹審の前）に開いてほしい。また、住民と行政で直接対話できるような会を開き、地下化などの問題を検討する。
・東名東京インターチェンジ周辺の人々など、ジャンクション周辺地域以外で外環整備の影響を受ける人々へ意見を聞くなど配慮してほしい。

その他の進め方に関するアイデア

・野川や湧水の水量に関する工事前後での水質を調査することで、外環整備の水量への影響に対する住民の不安に応えるとともに、もし影響が出た場合の対策をすぐ取ることができる。
・環境が悪化した場合、結果がひどくなったときにどうするのか。不測の事態が起こったら使用停止にするように対策をとってほしい。
・工事中・供用後のモニタリングを徹底し、何らかの影響が出た時にすばやく対応が取れるように、また、住民に情報提供・情報開示されることで住民の不安に応える。

13. 計画検討の進め方（情報の提供）の課題に対応するためのアイデア

PIの進め方に関するアイデア

・提案した意見(地下化について)がいつ回答してもらえるのか。いつの段階というだけでも良いから回答してほしい。うやむやにされるのが心配。決まってからの返事では意味がない。言って終わりになるのは困る。
・今までの情報や説明の仕方に疑問がある。決定する前にどの段階でどのような対応ができるかを明確にしてほしい。直接の対応で住民が理解できて納得できる説明の上で検討したい。

Gグループ

1. 交通（幹線交通）の課題に対応するためのアイデア

周辺部の計画に関するアイデア

・外環を整備しても、東名東京インターチェンジ出口の道路整備による自動車動線を確保しなければ、根本的な渋滞は解消しないのではないかという懸念がある。

2. 交通（広域交通）の課題に対応するためのアイデア

東名ジャンクション以南の進め方に関するアイデア

・東名ジャンクション以南を同時着工しないことによる、東名ジャンクションの規模の拡大や環境負荷の増加に懸念があるので、東名以南を同時着工し、環境負荷を軽減しジャンクション構造物の規模も縮小する。
・様々の課題を総合的に検討、解決するためには、課題の重要度を共通認識として持つことが必要である。Gグループでは次の３つを相互に関連する最重要課題と捉えた。
①地域の住民の生命・健康を守るためには、大気質が最も気がかりであり、大気質の確保が必要である。
②大気質をはじめとした様々の課題を総合的に解決する現実的な方策は、ジャンクションの半地下化である。
③換気所必要量や景観など具体的な検討を行うためには、東名以南の計画を同時に行うことが必要である。東名以南、第三京浜までの同時着工をすることで、地域の環境負荷の軽減も期待できる。

3. 環境（大気質）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・ランプは東名高速の下を通り、可能な限り地下や道路に蓋を被せて半地下化することで、現在想定される排気ガスや騒音による環境被害のほとんどが軽減される。
・半地下化することで、現在想定される排気ガスや騒音による環境被害のほとんどが軽減される。
・様々の課題を総合的に検討、解決するためには、課題の重要度を共通認識として持つことが必要である。Gグループでは次の３つを相互に関連する最重要課題と捉えた。
①地域の住民の生命・健康を守るためには、大気質が最も気がかりであり、大気質の確保が必要である。
②大気質をはじめとした様々の課題を総合的に解決する現実的な方策は、ジャンクションの半地下化である。
③換気所必要量や景観など具体的な検討を行うためには、東名以南の計画を同時に行うことが必要である。東名以南、第三京浜までの同時着工をすることで、地域の環境負荷の軽減も期待できる。
・料金所も含めて半地下化することで、現在想定される排気ガスや騒音による環境被害のほとんどが軽減される。
・東名ジャンクション以南を同時着工しないことによる、東名高速道路渋滞時の排気ガスの増加に懸念があるので、東名ジャンクション以南が完成するまで、東名高速道路の多摩川以北部分を完全ドーム化し、排気ガスを換気施設で処理し、周辺地域の大気汚染の悪化を軽減する。
・東名などの道路に蓋をかけることにより、現在想定される排気ガスや騒音被害が軽減されることを期待する。

環境施設帯の計画に関するアイデア

・環境施設帯は、年間を通じて二酸化炭素を吸収する常緑樹による緑化をしてほしい。

換気所の計画に関するアイデア

・換気所で処理する排気ガスの量が多く、換気所の処理能力が低下した場合に排気ガスにより大気汚染が発生する懸念があるため、換気所を分散して設置し、リスクを回避できるようにする。
・換気所の処理能力は、処理する排気ガス量に比例すると思われるため、換気所を分散することで解決する。
・隣接する殿山の高さなどを考慮したとき、３０mの高さで排気が十分拡散するか、懸念がある。

計画の進め方に関するアイデア

・東名以南も含めた排気量による大気への影響を検討し、フルジャンクション時の環境に対する影響を踏まえて対応する。

PIの進め方に関するアイデア

・地域特有の風向きや、台風などの特別な場合を踏まえていない排気ガスの拡散シミュレーションに懸念がある。

東名ジャンクション以南の進め方に関するアイデア

・少なくとも第三京浜まで開通することで、東名ジャンクションの規模や環境負荷が軽減すると期待できる。

4. 環境（騒音・振動・低周波音）の課題に対応するためのアイデア

トンネル部の計画に関するアイデア

・地上部での振動の影響に対する懸念がある。大深度部部分は振動を吸収する仕組みで建設し、振動を抑えれば大深度部分の地上部に居住する人の不安も解消できる。

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・ランプは東名高速の下を通り、可能な限り地下や道路に蓋を被せて半地下化することで、現在想定される排気ガスや騒音による環境被害のほとんどが軽減される。
・東名などの道路に蓋をかけることにより、現在想定される排気ガスや騒音被害が軽減されることを期待する。
・半地下化することで、現在想定される排気ガスや騒音による環境被害のほとんどが軽減される。
・料金所も含めて半地下化することで、現在想定される排気ガスや騒音による環境被害のほとんどが軽減される。
・開口部から騒音が漏れ出る事に懸念があるので、開口部に消音装置を設置することで、外環からの騒音を削減することが出来る。

5. 環境（地下水）の課題に対応するためのアイデア

トンネル部の計画に関するアイデア

・地下水の流れが阻害され野川や湧水等に影響が出る懸念がある。埋め戻し部分を地下水流動工法のような仕組みで建設すれば地下水の流れを阻害せず、影響を小さくすることができる。
・地下水流動工法が目詰まりする懸念がある。地下水流動工法のようなあらかじめ目詰まりした場合の対応を想定することで、工法に対する安心感を得られるようにしてほしい。

6. 環境（緑の量）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・ジャンクションを半地下化することで、殿山などへの影響を軽減する可能性が期待される。

環境施設帯の計画に関するアイデア

・環境施設帯は、なるべく緑化してほしい。

7. 環境（景観）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・ジャンクションは東名高速道路より高い位置を通るので、高さの面で景観上懸念がある。景観上は出来るだけ地上部に道路が出ない方が望ましい。

計画の進め方に関するアイデア

・景観上の配慮は、東名以南開通後のフルジャンクションの姿を前提に検討しないと適切に指摘できないのではないかという懸念がある。

8. まちづくり（土地利用）の課題に対応するためのアイデア

環境施設帯の計画に関するアイデア

・ドッグランの開設等人と動物とのコミュニケーションを育める場の創出を期待する。
・環境施設の一部で貸農園等の開放を期待する。

9. 安全・安心（交通安全・治安）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・環境施設帯や高架下の空間に監視カメラ等を設置し、安全を確保して欲しい。

10. 安全・安心（災害・事故時の対応）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・料金所部分に人が立ち入る場合の安全性に懸念がある。料金所部分は完全地下化ではなく、半地下で建設することで災害時等に安全に避難できるようにできる。

11. 用地・補償の課題に対応するためのアイデア

PIの進め方に関するアイデア

・移転が想定される地域において、計画の進捗状況や、移転の不安などに対して公有地などの情報提供を行うなど、移転対象世帯の抱える不安を解消して、生活設計がしやすくなるように配慮する。
・補償について話し合う場を早い段階から設定し、方針を明確にすることにより、移転世帯の不

安を解消し、生活設計をしやすくする。

12. 計画検討の進め方（計画検討全般）の課題に対応するためのアイデア

計画の進め方に関するアイデア

・計画時点ではなく現時点の最新技術を取り入れた対策を検討する。
・東名以南の計画条件を定めた上で東名以南と一体化した東名ジャンクションの料金所、換気塔、半地下化について検討する。

調査の進め方に関するアイデア

・古いデータで計画された事業を実施することに懸念があるので、最新の交通量データにより見直し、設計に反映できるようにする。
・古いデータを基にシミュレーションされた環境影響評価に懸念がある。最新の通過交通量から排気ガスの量を算出し、そのデータを基に風洞実験等のシミュレーションを行い、その結果を設計に反映できるようにする。
・地域特有の風向きや、台風などの特別な場合について再調査をし、地域の不安を取り除くていねいな調査、シミュレーションをすることを希望する。
・喜多見地域の地下水の影響のある武蔵野台地（成城台地）の深層水の分布範囲と層構成する岩石の組成を調査することを期待する。
・ボーリング調査の深さが浅いことや、場所が適切でないこと、箇所数が少ないこと、調査の位置が外環予定地の直近でないことに懸念がある。

13. 計画検討の進め方（意見反映）の課題に対応するためのアイデア

その他進め方に関するアイデア

・緑と水の拠点が連続する環境資源を総合的に保全できるように、地域の環境を総合的に確認、点検していくことが望まれる。

14. 計画検討の進め方（情報の提供）の課題に対応するためのアイデア

PIの進め方に関するアイデア

・中央環状等の他事例の計画段階と供用後の環境に関する問題や課題を把握することで、わかりやすい課題の説明を行う。

Hグループ

1. 交通（広域交通）の課題に対応するためのアイデア

東名ジャンクション以南の進め方に関するアイデア

・東名以南の開通時期や工事時期などのスケジュールについて教えてほしい。

2. 環境（大気質）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・外環から東名の都心方向へ向かう接続路を中止することによって、排気ガスの懸念を解消できる。
・環境保全を優先し、東名ジャンクションを地下化してほしい。
・外環から東名の都心方向へ向かう接続路を中野田橋あたりから砧公園、仙川の地下を通して東名と接続させることによって、排気ガスの懸念を解消できる。
・都心方面から外環の中央道方面に向かう路線を早めに地下におろして仙川の下を通すことによって、排気ガスの懸念を解消できる。
・東名下り方面との接続部分は、多摩川近くで地上の東名と接続させることによって、排気ガスの懸念を解消できる。

換気所の計画に関するアイデア

・換気所を増やし、大気質の問題や、喜多見地域に排気ガスが集中することへの懸念を解消することが重要である。
・地下化の検討とあわせて、換気所の位置もよりよい位置に検討し直すことが重要である。換気所の設置箇所を増やし、場所も再検討する。
・開削部分からの排出ガスによる大気質の汚染への懸念を解消することが重要である。開削部分からの排出ガス対策について具体的な検討をおこなう。
・地上部分の合計距離を最小限に抑えるための構造とし、排気ガスの懸念を解消することが重要である。

3. 環境（騒音・振動・低周波音）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・環境保全を優先し、東名ジャンクションを地下化してほしい。

4. 環境（動物、植物、生態系）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・水や空気、動植物の自然の観点からは地下化が望ましい。地下化について真剣に、本気に検討することを期待する。
・ジャンクション部分を築山にし、景観や、自然環境（動植物の生態系）への懸念を解消することが重要である。
・環境施設帯を広げ丘陵化し緑地帯として、殿山地区を中心に、猛禽類の移動の中継ポイントになるような地域として整備すること期待する。

5. 環境（緑の量）の課題に対応するためのアイデア

環境施設帯の計画に関するアイデア

・サザンカ、ツバキ、お茶類などの茶毛虫のつかない植物を植えつけてほしい。
・残土の有効活用を行い、ジャンクションとその周辺を地下掘削の土砂を利用し、山、丘陵化し、里山的な樹林帯、森林公園化してほしい。

6. 環境（景観）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・ジャンクションによる景観への影響が心配なので、中央環状線も完全地下化になったのだから、東名高速道路も地下でつなげる事も含めてジャンクションの（完全）地下化を真剣に検討することを期待する。
・ジャンクション部分を築山にし、景観や、自然環境（動植物の生態系）への懸念を解消することが重要である。
・工事の残土で換気所周辺を大規模な緑地の山をつくるなど、新しい景観形成を図ってほしい。

環境施設帯の計画に関するアイデア

・遮音壁の両側に景観への配慮のために常緑樹を植えることを期待する。

7. 環境（日照阻害・電波障害・風など）の課題に対応するためのアイデア

換気所の計画に関するアイデア

・周囲への風害が懸念され、すこしでも影響を小さくすることが重要である。風害の影響を小さくするために風向きを考慮して換気所を舟形の形状にする。

8. まちづくり（まちづくり全般）の課題に対応するためのアイデア

環境施設帯の計画に関するアイデア

・環境施設帯にコミュニティー施設など計画するなど、地域コミュニティーの活性化をしてほしい。

9. まちづくり（土地利用）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・換気所周辺に緑地公園を建設するなど、地域の憩いの場にしてほしい。
・ジャンクションは車両、ドライバーだけのジャンクションではなく、地域の人の交流、鳥獣も交流できるようなジャンクションとして再検討してほしい。
・計画線の中にある現在の農地で農業を続けたい。中央環状線も完全地下化になったのだから、東名高速道路も地下でつなげる事も含めてジャンクションの（完全）地下化を真剣に検討することを期待する。
・地上部分の合計距離を最小限に抑えるための構造とし、農業用地が縮小されることへの懸念を解消することが重要である。
・地上部分の合計距離を最小限に抑えるための構造とし、農業用地が縮小されることへの懸念を解消することが重要である。ジャンクションを可能な限り地下化すべき。
・外環から東名の都心方向へ向かう接続路を中止することによって、都心への車の流入を少なくし、かつ、農業用地が縮小されることへの懸念を解消できる。
・外環から東名の都心方向へ向かう接続路を中止することによって、農業用地が縮小されることへの懸念を解消できる。
・外環から東名の都心方向へ向かう接続路を中野田橋あたりから砧公園、仙川の地下を通して東名と接続させることによって、農業用地が縮小されることへの懸念を解消できる。
・都心方面から外環の中央道方面に向かう路線を早めに地下におろして仙川の下を通すことによって、農業用地が縮小されることへの懸念を解消できる。
・東名下り方面との接続部分は、多摩川近くで地上の東名と接続させることによって、農業用地が縮小されることへの懸念を解消できる。

環境施設帯の計画に関するアイデア

・地区会館の改修、図書館、体育館の建設などの地域施設の充実を行ってほしい。

10. 安全・安心（交通安全・治安）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・東名高速道路の高架下のような陰気な空間になる事が懸念される。どうしてもジャンクションを地上化するのであれば、「東名ジャンクション丘陵」として緑の丘陵化として整備することを期待する。
・東名高速道路の高架下のような陰気な空間になる事が懸念される。地下化などをおこなうことにより、陰気な高架下空間を少なくできる。

11. 用地・補償の課題に対応するためのアイデア

環境施設帯の計画に関するアイデア

・環境施設帯を農地として利用し、代替地をもらった場合にも農業の継承が可能になることを期待する。また、学校給食への地域の農業生産物の提供を持続できることを期待する。

用地補償の進め方に関するアイデア

・移転補償や事業に伴う税制措置が事業主体や事業のやり方、事業時期などによって変わると聞いているが、国の事業である事を明確にし、補償や税制措置などがよくわかるような説明を期待する。

12. 計画検討の進め方（計画検討全般）の課題に対応するためのアイデア

調査の進め方に関するアイデア

・最近の大雨データや、将来の大雨予想を踏まえたシミュレーションを実施し、大雨時の排水能力に対する懸念を解消することが重要である。
・ジャンクション計画においては、大気質の観測地点を増やしてほしいという住民の要求に応える事を期待している。また、住民もそうした調査に関ることにも参画したいし、参画に協力してもらえることを期待する。
・ボーリング調査が少なすぎるので、例として、等々力渓谷と同じ位の大切な自然遺産である国分寺崖線に関る本調査においても、等々力駅地下化検討でされた調査と同等の調査数などを期待する。
・成城地域を含め、ボーリング調査の箇所数を増やすなど、地下水の調査をもっと詳しく行ってほしい。
・地盤調査の方法に対して不満であり、詳しく調査してほしい。
・東名高速道路ができたことによって光化学スモッグが発生し易い地形であることも解った。現在でも外環雲現象が現れている事から、東名ジャンクションにより、地形的にもより一層の大

気の汚染が懸念される。より詳細な大気シミュレーションのやり直しを期待する。
・東名高速道路について、今までの大気質の観測地点を増やす事を期待する。
・野川周辺は、地下水の構造が毛細血管のように張り巡らされて、川底も湧水や沈水があるなど複雑である。そうした地下水は貴重な資源である。現在の環境影響評価書はボーリング調査なども不足しており、そうした複雑な地下水に配慮した評価結果ではない。地下水と地下構造物についてのボーリング調査の箇所数を増やすなど綿密な詳細な調査を期待する。
・自然環境（動植物の生態系）への懸念を解消することが重要である。オオタカの調査と保護をおこなう。
・５月に成立した「生物多様性基本法」を遵守しながら検討を進める。

13. 計画検討の進め方（意見反映）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

・東名ジャンクションを（完全）地下化、野川の下で地下化する方向で計画検討してほしい。
・水や空気、動植物の自然の観点からは地下化が望ましい。地下化について真剣に、本気に検討することを期待する。ジャンクションの地下化を前提とした環境アセスメントを実施すべき。

14. 計画検討の進め方（情報の提供）の課題に対応するためのアイデア

PI の進め方に関するアイデア

・深層地下水のシミュレーションについても、近年の気象条件の変化など、３年前の大雨のデータが反映されていないことが懸念される。今のあいまいな前提条件での評価結果でも、危険性が懸念されるため、詳細な説明をしてほしい。